

**第 8 次葦崎市総合計画策定に向けた
調査報告書
～市民アンケート調査 編～**

(1) 実施概要

市民アンケート調査

- ・実施日：2025（令和7）年10月27日～11月10日
- ・配布対象：18歳以上の市民2,000名
- ・実施方法：発送は郵送、回収は郵送またはWEBフォームにて回答
- ・回収数：760件

(2) 結果概要

市民アンケート調査（760件）

<居住地の選定理由>

「配偶者（またはパートナー）の出身地であるため」が28.2%と最も多く、次いで「住宅取得（持ち家・賃貸など）の条件が合ったため」が24.4%

<住みやすさ>

「どちらかという住みやすい」が37.2%と最も多く、次いで「住みやすい」「どちらとも言えない」が25.7%

<今後も住み続けたい意向>

「住み続けたい」が38.8%と最も多く、次いで「どちらかという住み続けたい」が29.7%
年齢別で見ると、20歳代後半で、住み続けたい意向が一度減少

<住み続けたい理由>

「自分の家や土地があるから」が62.7%と最も多く、次いで「自然環境がよいから」が50.7%、
「韮崎市に愛着があるから」が26.7%

特に20歳代と60歳以上の層で「自然環境が良いから」の理由が多い

<住み続けたくない理由>

「交通の便が悪いから」が52.4%と最も多く、次いで「買い物に不便だから」が42.9%

<目指すまちの将来像>

- ①「保健・医療・福祉支援が充実し、高齢者が元気に生活できるまち」が43.9%と最も多く、
 - ②次いで「バスや鉄道などの交通機関が整い、日常生活の利便性が高いまち」が39.3%、
 - ③「災害や犯罪が少なく、安心・安全に暮らせるまち」が35.8%、
 - ④「子育て・教育支援が充実したまち」が32.4%
- 年齢別に見ると、30代前後は子育て・教育支援（子育て・教育支援が充実したまち）のニーズが高く、高齢者ほど保健・医療・福祉支援（保健・医療・福祉支援が充実し、高齢者が元気に生活できるまち）のニーズが高い。また安全・安心はどの世代においても高くなっている。
性別では、女性の方が、日常生活の利便性（バスや鉄道などの交通機関が整い、日常生活の利便性）が高いまちのニーズが高くなっている。

<人口減少に歯止めをかけるために重要なこと>

- ①「働く場の確保」が52.5%と最も多く、
- ②次いで「子育て支援や教育環境の充実」が48.3%、
- ③「日常生活の利便性の向上」が45.3%

<地域生活の中で、地域の人が協力して取り組むこと>

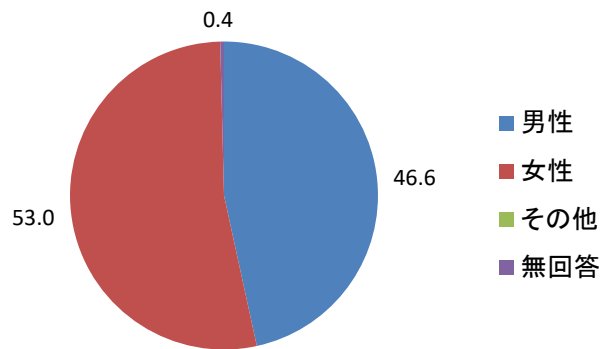
- ①「災害や防災対策」が54.2%と最も多く、
- ②次いで「日常的な見守りや声かけ」が36.7%、
- ③「高齢者への支援」が32.9%

(3) 市民アンケート結果

① 性別

「女性」が 53.0%と最も多く、次いで「男性」が 46.6%、「その他」が 0.4%となっている。

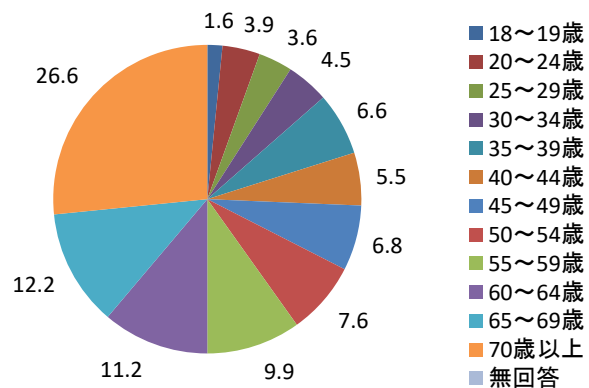
	件数	比率
総数	760	100.0%
男性	354	46.6%
女性	403	53.0%
その他		0.0%
無回答	3	0.4%



② 年代

「70歳以上」が 26.6%と最も多く、次いで「65～69歳」が 12.2%、「60～64歳」が 11.2%、「55～59歳」が 9.9%となっている。

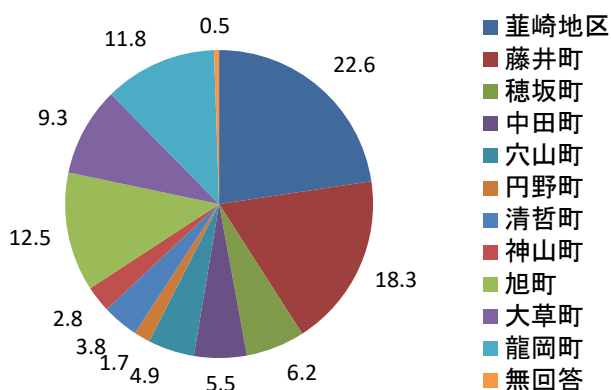
	件数	比率
総数	760	100.0%
18～19歳	12	1.6%
20～24歳	30	3.9%
25～29歳	27	3.6%
30～34歳	34	4.5%
35～39歳	50	6.6%
40～44歳	42	5.5%
45～49歳	52	6.8%
50～54歳	58	7.6%
55～59歳	75	9.9%
60～64歳	85	11.2%
65～69歳	93	12.2%
70歳以上	202	26.6%
無回答		0.0%



③ 現在お住まいの地区

「葦崎地区」が22.6%と最も多く、次いで「藤井町」が18.3%、「旭町」が12.5%、「龍岡町」が11.8%となっている。

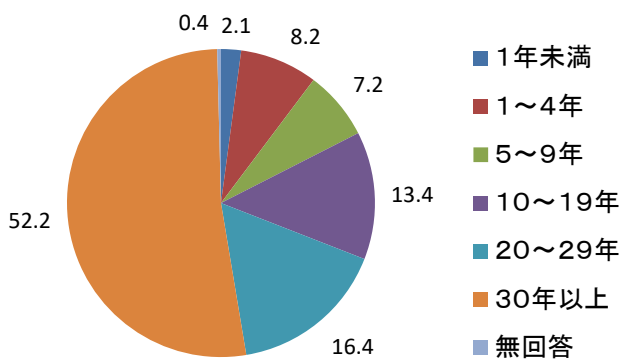
	件数	比率
総数	760	100.0%
葦崎地区	172	22.6%
藤井町	139	18.3%
穂坂町	47	6.2%
中田町	42	5.5%
穴山町	37	4.9%
円野町	13	1.7%
清哲町	29	3.8%
神山町	21	2.8%
旭町	95	12.5%
大草町	71	9.3%
龍岡町	90	11.8%
無回答	4	0.5%
総数	760	100.0%



④ 市内にお住まいの期間

「30年以上」が52.2%と最も多く、次いで「20～29年」が16.4%、「10～19年」が13.4%、「1～4年」が8.2%となっている。

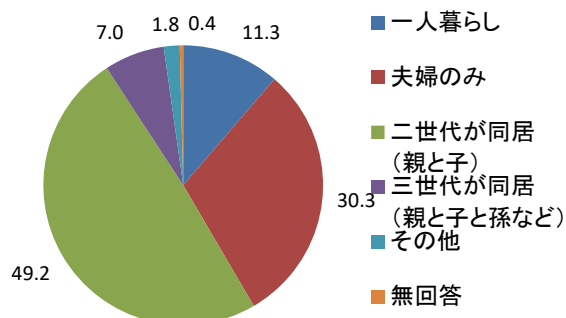
	件数	比率
総数	760	100.0%
1年未満	16	2.1%
1～4年	62	8.2%
5～9年	55	7.2%
10～19年	102	13.4%
20～29年	125	16.4%
30年以上	397	52.2%
無回答	3	0.4%



⑤ 家族構成

「30年以上」が52.2%と最も多く、次いで「20～29年」が16.4%、「10～19年」が13.4%、「1～4年」が8.2%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
一人暮らし	86	11.3%
夫婦のみ	230	30.3%
二世帯が同居(親と子)	374	49.2%
三世帯が同居(親と子と孫など)	53	7.0%
その他	14	1.8%
無回答	3	0.4%

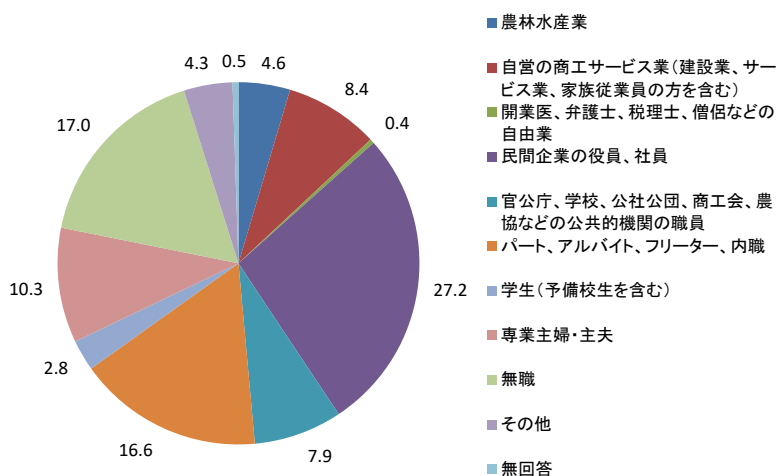


<その他> 婚約者や恋人と同棲

⑥ 就業状況

「民間企業の役員、社員」が27.2%と最も多く、次いで「無職」が17.0%、「パート、アルバイト、フリーター、内職」が16.6%、「専業主婦・主夫」が10.3%となっている。

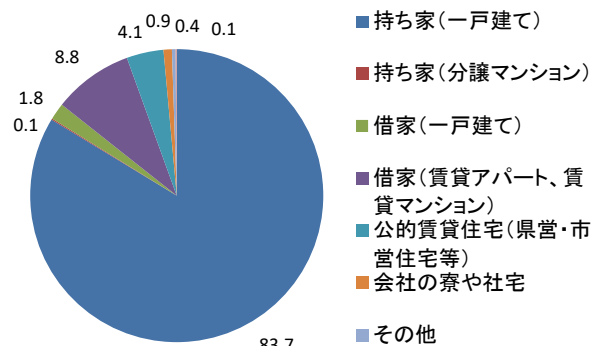
	件数	比率
総数	760	100.0%
農林水産業	35	4.6%
自営の商工サービス業(建設業、サービス業、家族従業員の方を含む)	64	8.4%
開業医、弁護士、税理士、僧侶などの自由業	3	0.4%
民間企業の役員、社員	207	27.2%
官公庁、学校、公社公団、商工会、農協などの公共的機関の職員	60	7.9%
パート、アルバイト、フリーター、内職	126	16.6%
学生(予備校生を含む)	21	2.8%
専業主婦・主夫	78	10.3%
無職	129	17.0%
その他	33	4.3%
無回答	4	0.5%



⑦ 現在お住まいの住宅

「持ち家(一戸建て)」が 83.7%と最も多く、次いで「借家(賃貸アパート、賃貸マンション)」が 8.8%、「公的賃貸住宅(県営・市営住宅等)」が 4.1%、「借家(一戸建て)」が 1.8%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
持ち家(一戸建て)	636	83.7%
持ち家(分譲マンション)	1	0.1%
借家(一戸建て)	14	1.8%
借家(賃貸アパート、賃貸マンション)	67	8.8%
公的賃貸住宅(県営・市営住宅等)	31	4.1%
会社の寮や社宅	7	0.9%
その他	3	0.4%
無回答	1	0.1%

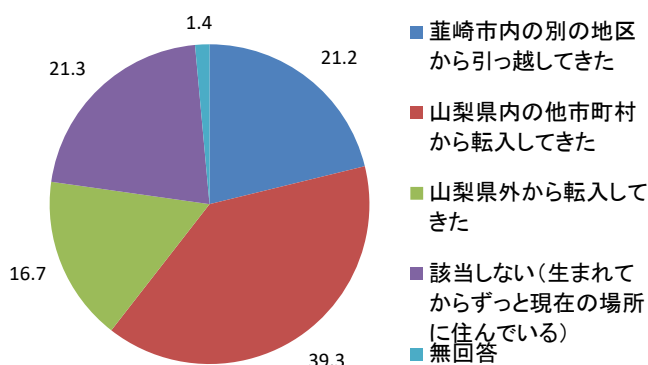


<その他> グループホーム

⑧ 現在の場所にお住まいになる以前の居住地

「山梨県内の他市町村から転入してきた」が 39.3%と最も多く、次いで「該当しない(生まれてからずっと現在の場所に住んでいる)」が 21.3%、「韮崎市内の別の地区から引っ越してきた」が 21.2%、「山梨県外から転入してきた」が 16.7%となっている。

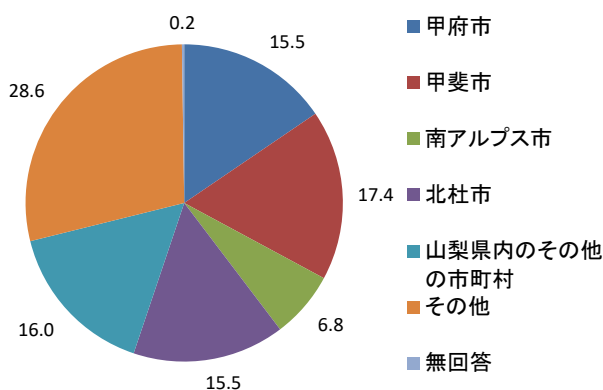
	件数	比率
総数	760	100.0%
韮崎市内の別の地区から引っ越してきた	161	21.2%
山梨県内の他市町村から転入してきた	299	39.3%
山梨県外から転入してきた	127	16.7%
該当しない(生まれてからずっと現在の場所に住んでいる)	162	21.3%
無回答	11	1.4%



⑨ 以前住んでいた自治体

「その他」が 28.6%と最も多く、次いで「甲斐市」が 17.4%、「山梨県内のその他の市町村」が 16.0%、「甲府市」「北杜市」が 15.5%となっている。

	件数	比率
総数	426	100.0%
甲府市	66	15.5%
甲斐市	74	17.4%
南アルプス市	29	6.8%
北杜市	66	15.5%
山梨県内のその他の市町村	68	16.0%
その他	122	28.6%
無回答	1	0.2%

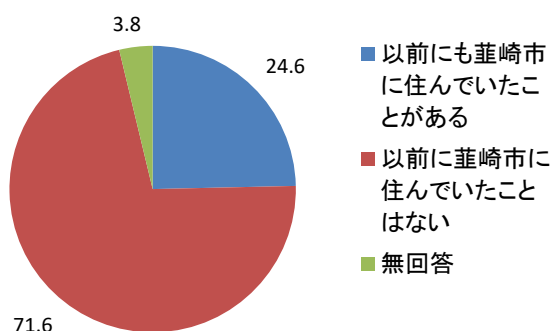


<その他> 北海道、北関東、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県 など

⑩ 以前も韮崎に住んでいたことはあるか

「以前も韮崎市に住んでいたことはない」が 71.6%と最も多く、次いで「以前も韮崎市に住んでいたことがある」が 24.6%となっている。

	件数	比率
総数	426	100.0%
以前も韮崎市に住んでいたことがある	105	24.6%
以前も韮崎市に住んでいたことはない	305	71.6%
無回答	16	3.8%

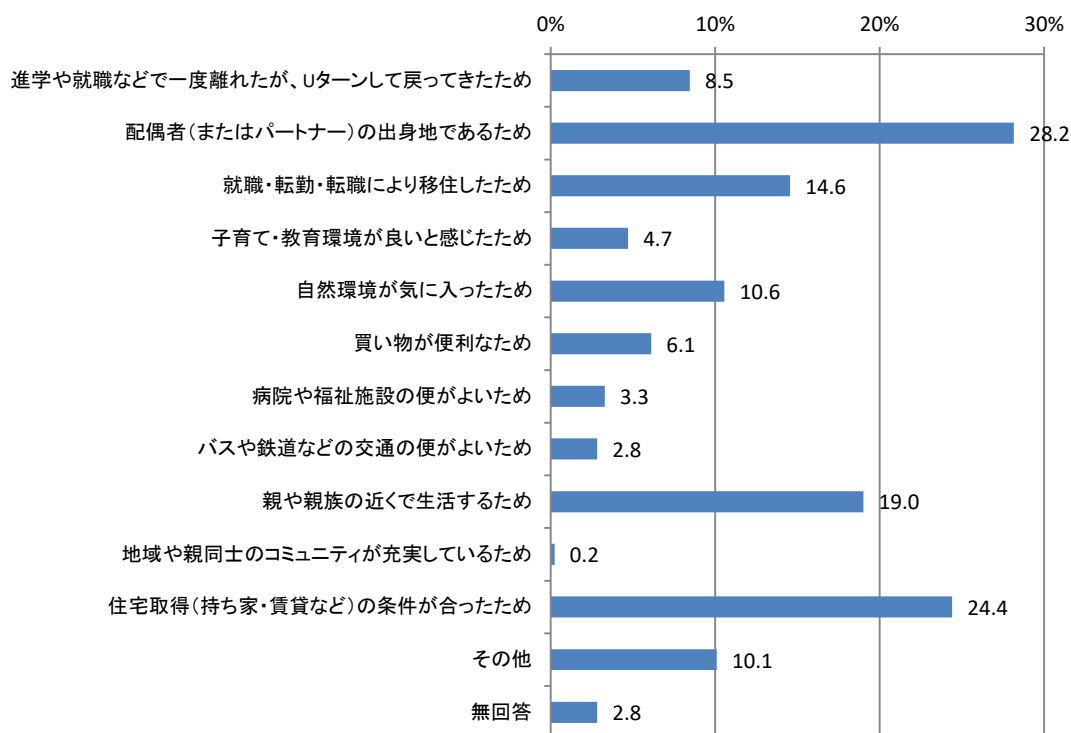


⑪ 現在の居住地を選んだ理由

「配偶者(またはパートナー)の出身地であるため」が 28.2%と最も多く、次いで「住宅取得(持ち家・賃貸など)の条件が合ったため」が 24.4%、「親や親族の近くで生活するため」が 19.0%、「就職・転勤・転職により移住したため」が 14.6%となっている。

	件数	比率
総数	426	100.0%
進学や就職などで一度離れたが、Uターンして戻ってきたため	36	8.5%
配偶者(またはパートナー)の出身地であるため	120	28.2%
就職・転勤・転職により移住したため	62	14.6%
子育て・教育環境が良いと感じたため	20	4.7%
自然環境が気に入ったため	45	10.6%
買い物が便利のため	26	6.1%
病院や福祉施設の便がよいため	14	3.3%
バスや鉄道などの交通の便がよいため	12	2.8%
親や親族の近くで生活するため	81	19.0%
地域や親同士のコミュニティが充実しているため	1	0.2%
住宅取得(持ち家・賃貸など)の条件が合ったため	104	24.4%
その他	43	10.1%
無回答	12	2.8%

<その他> 家族の事情、仕事の事情、学校の事情



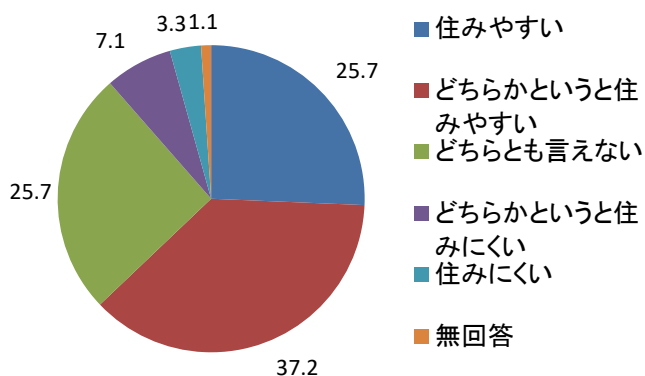
⑫ 韮崎市は住みやすさ

「どちらかという住みやすい」が37.2%と最も多く、次いで「住みやすい」「どちらとも言えない」が25.7%、「どちらかという住みにくい」が7.1%となっている。

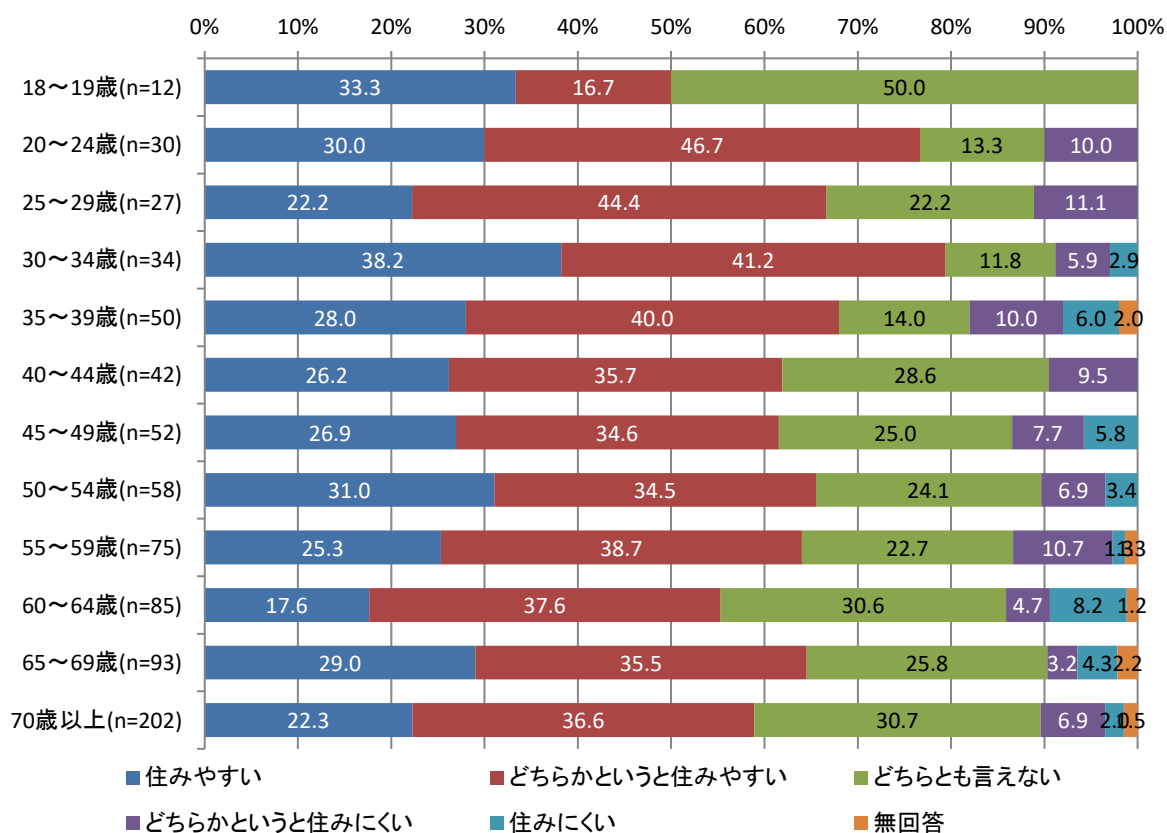
年齢別では、20代から30代前半においては「住みやすい」「どちらとも言えない」の割合が、他の年齢層より高くなっている。

また、従前の居住地別にみると、山梨県外から転入してきた人の「住みやすい」「どちらとも言えない」の割合が高くなっている。

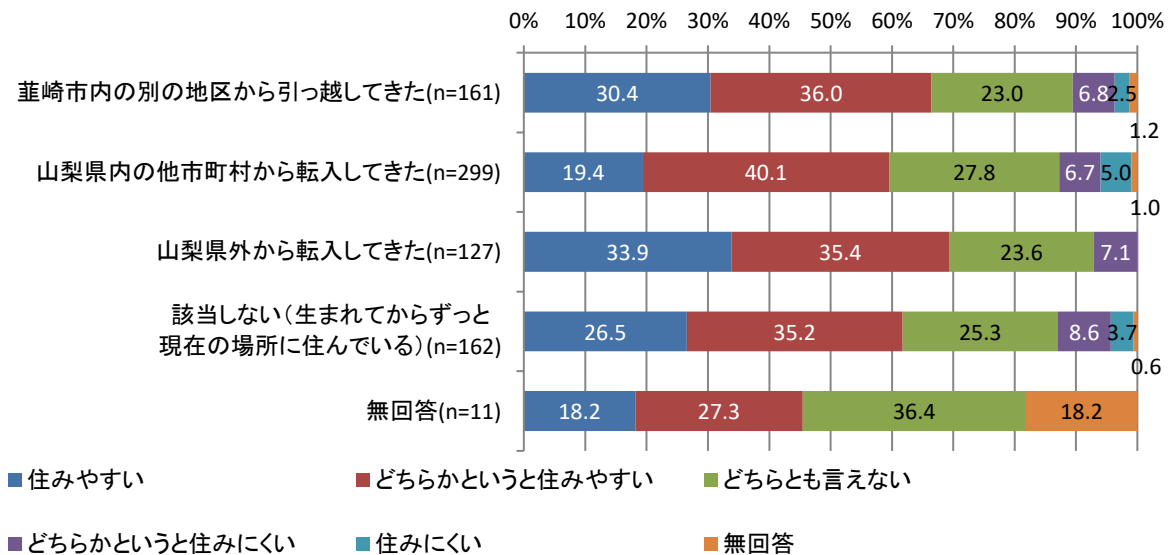
	件数	比率
総数	760	100.0%
住みやすい	195	25.7%
どちらかという住みやすい	283	37.2%
どちらとも言えない	195	25.7%
どちらかという住みにくい	54	7.1%
住みにくい	25	3.3%
無回答	8	1.1%



■年齢別



■従前の居住地別

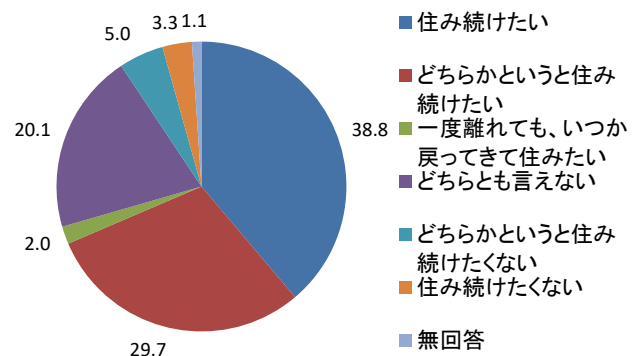


⑬ 今後も韮崎市に住み続けたい意向

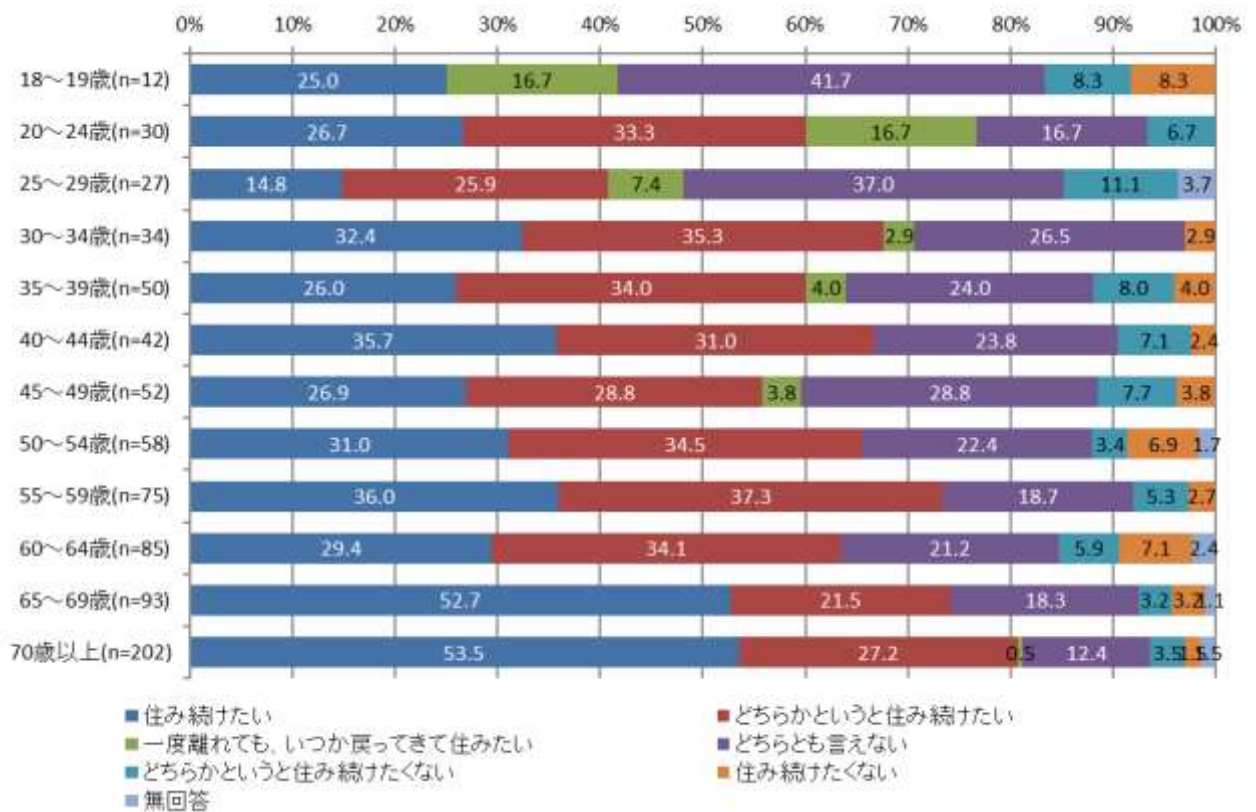
「住み続けたい」が 38.8%と最も多く、次いで「どちらかというに住み続けたい」が 29.7%、「どちらとも言えない」が 20.1%、「どちらかというに住み続けたくない」が 5.0%となっている。

年齢別でみると、20歳代後半で、住み続けたい意向が一度減少している。

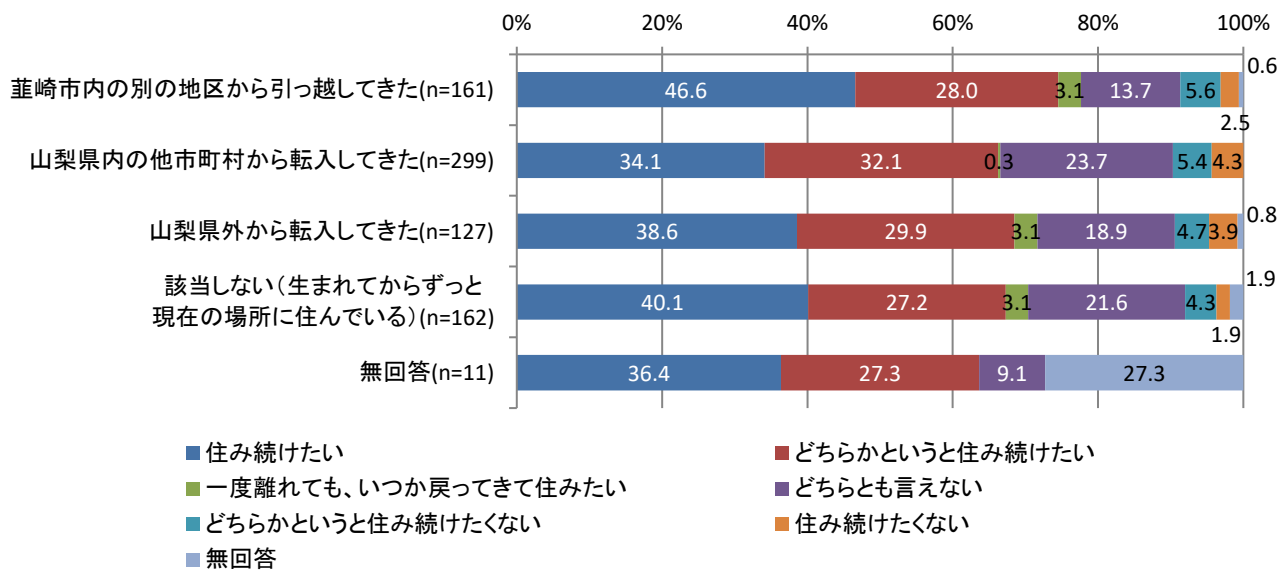
	件数	比率
総数	760	100.0%
住み続けたい	295	38.8%
どちらかというに住み続けたい	226	29.7%
一度離れても、いつか戻ってきて住みたい	15	2.0%
どちらとも言えない	153	20.1%
どちらかというに住み続けたくない	38	5.0%
住み続けたくない	25	3.3%
無回答	8	1.1%



■年齢別



■従前の居住地別



⑭ 住み続けたいと思う理由

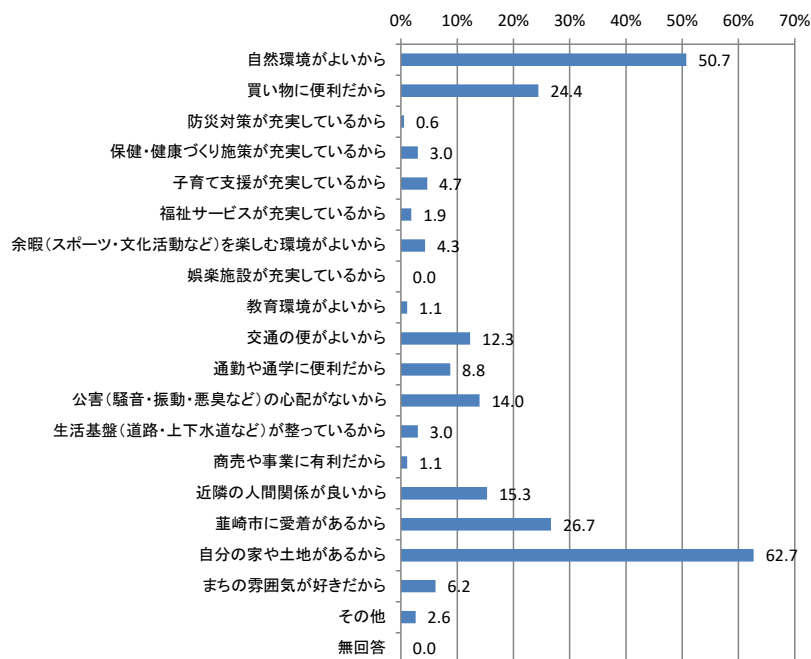
「自分の家や土地があるから」が 62.7%と最も多く、次いで「自然環境がよいから」が 50.7%、「韮崎市に愛着があるから」が 26.7%、「買い物に便利だから」が 24.4%となっている。

年齢別でみると、20代の層と60歳以上の層において、「自然環境が良いから」が高くなっている。

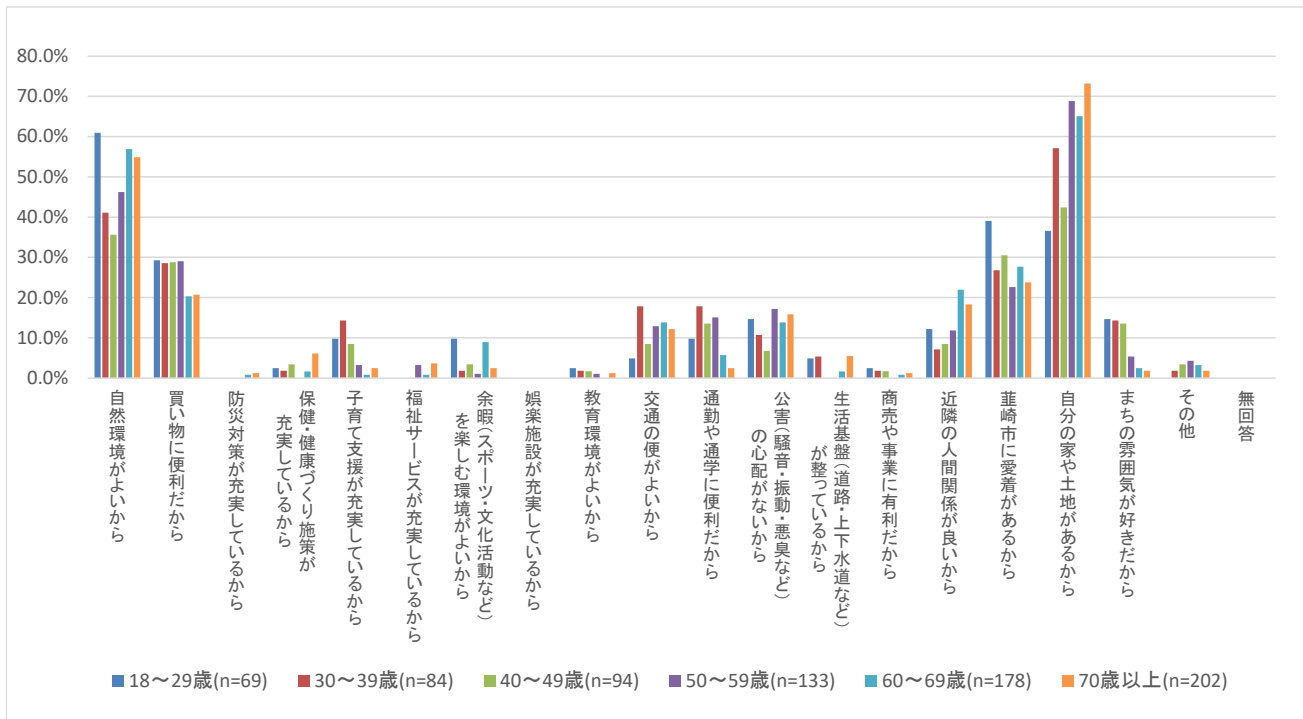
また従前の居住地別に見ると、山梨県外から転入してきた人は「自然環境が良いから」が高くなっている。

	件数	比率
総数	536	100.0%
自然環境がよいから	272	50.7%
買い物に便利だから	131	24.4%
防災対策が充実しているから	3	0.6%
保健・健康づくり施策が充実しているから	16	3.0%
子育て支援が充実しているから	25	4.7%
福祉サービスが充実しているから	10	1.9%
余暇(スポーツ・文化活動など)を楽しむ環境がよいから	23	4.3%
娯楽施設が充実しているから		0.0%
教育環境がよいから	6	1.1%
交通の便がよいから	66	12.3%
通勤や通学に便利だから	47	8.8%
公害(騒音・振動・悪臭など)の心配がないから	75	14.0%
生活基盤(道路・上下水道など)が整っているから	16	3.0%
商売や事業に有利だから	6	1.1%
近隣の人間関係が良いから	82	15.3%
韮崎市に愛着があるから	143	26.7%
自分の家や土地があるから	336	62.7%
まちの雰囲気が好きだから	33	6.2%
その他	14	2.6%
無回答		0.0%

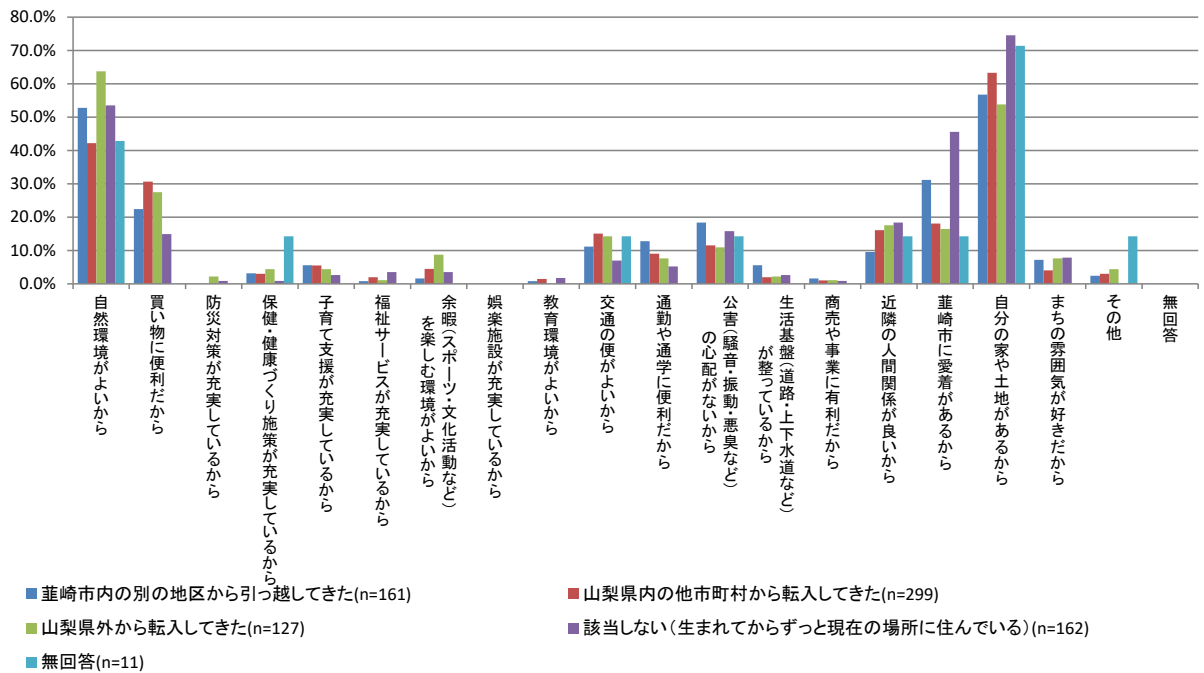
<その他> 親族が近くにいるから



■年齢別



■従前の居住地別



⑮ 住み続けたくない理由

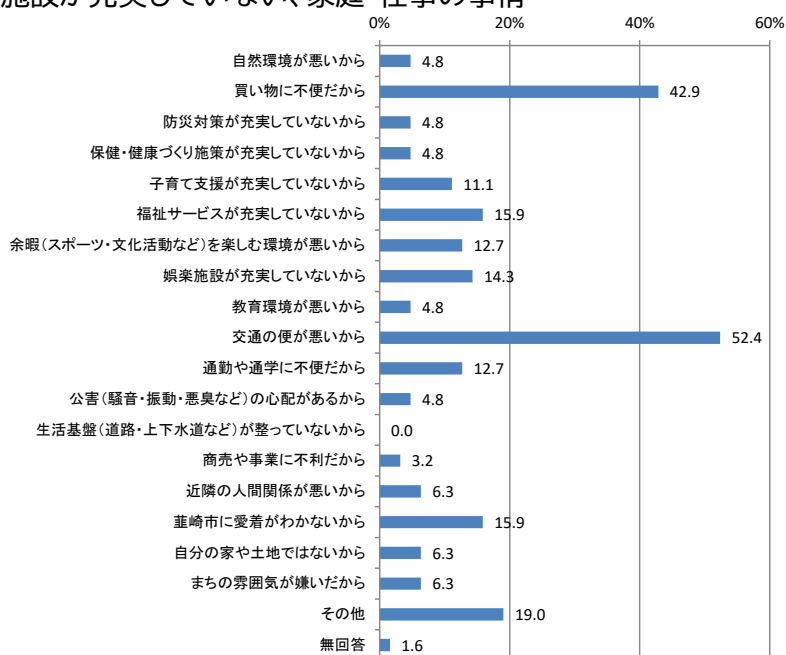
「交通の便が悪いから」が 52.4%と最も多く、次いで「買い物に不便だから」が 42.9%、「その他」が 19.0%、「福祉サービスが充実していないから」「韮崎市に愛着がわかないから」が 15.9%となっている。

年齢別でみると、20代の層と60歳以上の層において、「交通の便が悪いから」が高くなっている。

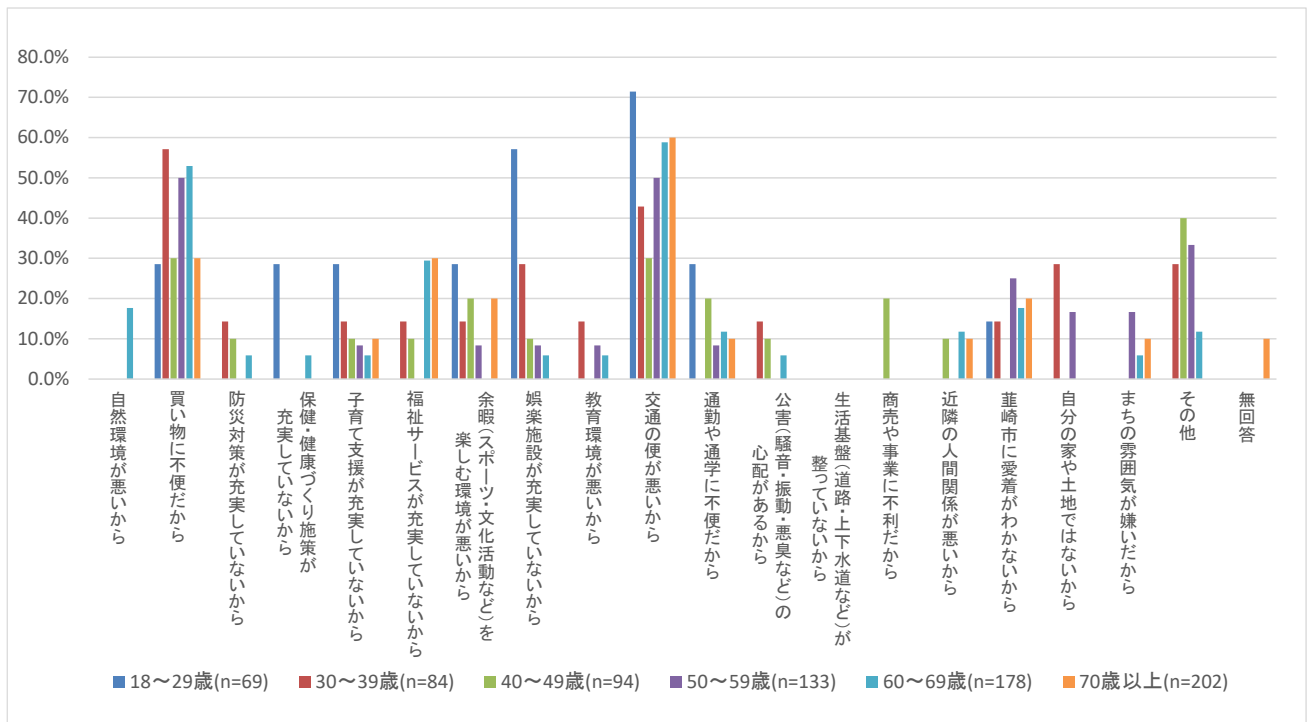
また従前の居住地別に見ると、外から転入してきた人においては、交通の便の悪さは、市内にいた人ほど高くない。

	件数	比率
総数	63	100.0%
自然環境が悪いから	3	4.8%
買い物に不便だから	27	42.9%
防災対策が充実していないから	3	4.8%
保健・健康づくり施策が充実していないから	3	4.8%
子育て支援が充実していないから	7	11.1%
福祉サービスが充実していないから	10	15.9%
余暇(スポーツ・文化活動など)を楽しむ環境が悪いから	8	12.7%
娯楽施設が充実していないから	9	14.3%
教育環境が悪いから	3	4.8%
交通の便が悪いから	33	52.4%
通勤や通学に不便だから	8	12.7%
公害(騒音・振動・悪臭など)の心配があるから	3	4.8%
生活基盤(道路・上下水道など)が整っていないから		0.0%
商売や事業に不利だから	2	3.2%
近隣の人間関係が悪いから	4	6.3%
韮崎市に愛着がわかないから	10	15.9%
自分の家や土地ではないから	4	6.3%
まちの雰囲気嫌いだから	4	6.3%
その他	12	19.0%
無回答	1	1.6%

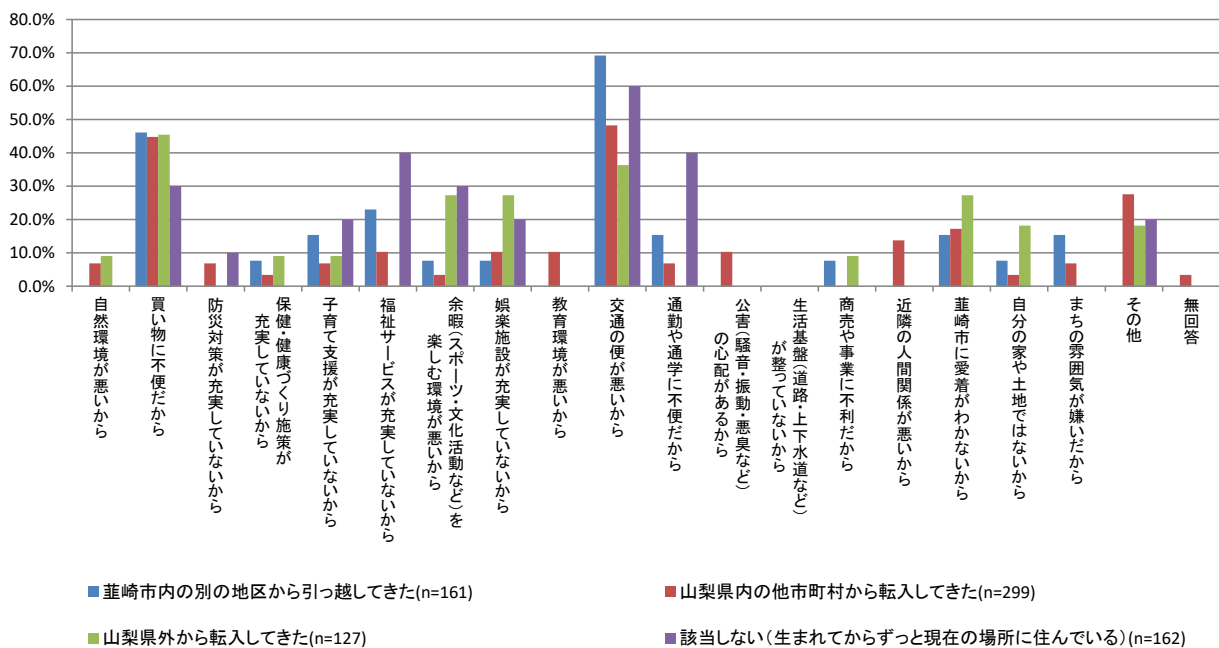
<その他> 医療施設が充実していない、家庭・仕事の事情



■年齢別



■従前の居住地別



⑩ 韮崎市は将来どのようなまちを目指していくべきか

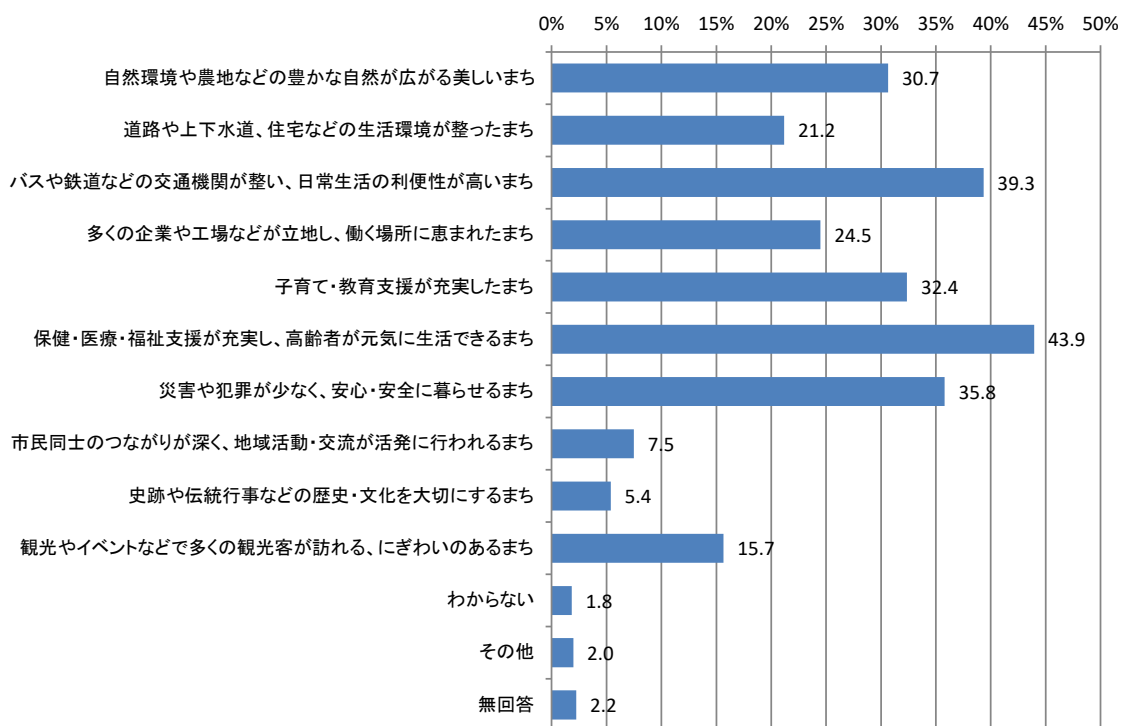
「保健・医療・福祉支援が充実し、高齢者が元気に生活できるまち」が43.9%と最も多く、次いで「バスや鉄道などの交通機関が整い、日常生活の利便性が高いまち」が39.3%、「災害や犯罪が少なく、安心・安全に暮らせるまち」が35.8%、「子育て・教育支援が充実したまち」が32.4%となっている。

年齢別に見ると、30代前後は子育て・教育支援(子育て・教育支援が充実したまち)のニーズが高く、高齢者ほど保健・医療・福祉支援(保健・医療・福祉支援が充実し、高齢者が元気に生活できるまち)のニーズが高い。また安全・安心はどの世代においても高くなっている。

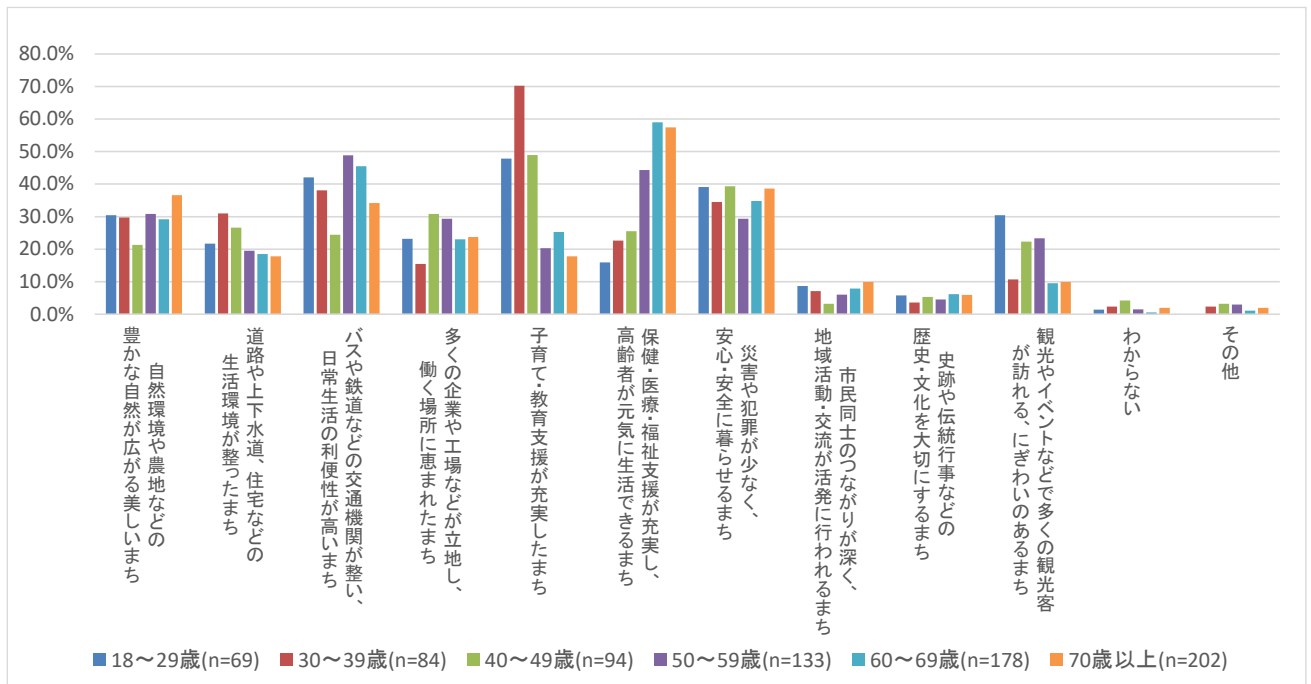
性別では、女性の方が、日常生活の利便性(バスや鉄道などの交通機関が整い、日常生活の利便性が高いまち)のニーズが高くなっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
自然環境や農地などの豊かな自然が広がる美しいまち	233	30.7%
道路や上下水道、住宅などの生活環境が整ったまち	161	21.2%
バスや鉄道などの交通機関が整い、日常生活の利便性が高いまち	299	39.3%
多くの企業や工場などが立地し、働く場所に恵まれたまち	186	24.5%
子育て・教育支援が充実したまち	246	32.4%
保健・医療・福祉支援が充実し、高齢者が元気に生活できるまち	334	43.9%
災害や犯罪が少なく、安心・安全に暮らせるまち	272	35.8%
市民同士のつながりが深く、地域活動・交流が活発に行われるまち	57	7.5%
史跡や伝統行事などの歴史・文化を大切にすまち	41	5.4%
観光やイベントなどで多くの観光客が訪れる、にぎわいのあるまち	119	15.7%
わからない	14	1.8%
その他	15	2.0%
無回答	17	2.2%

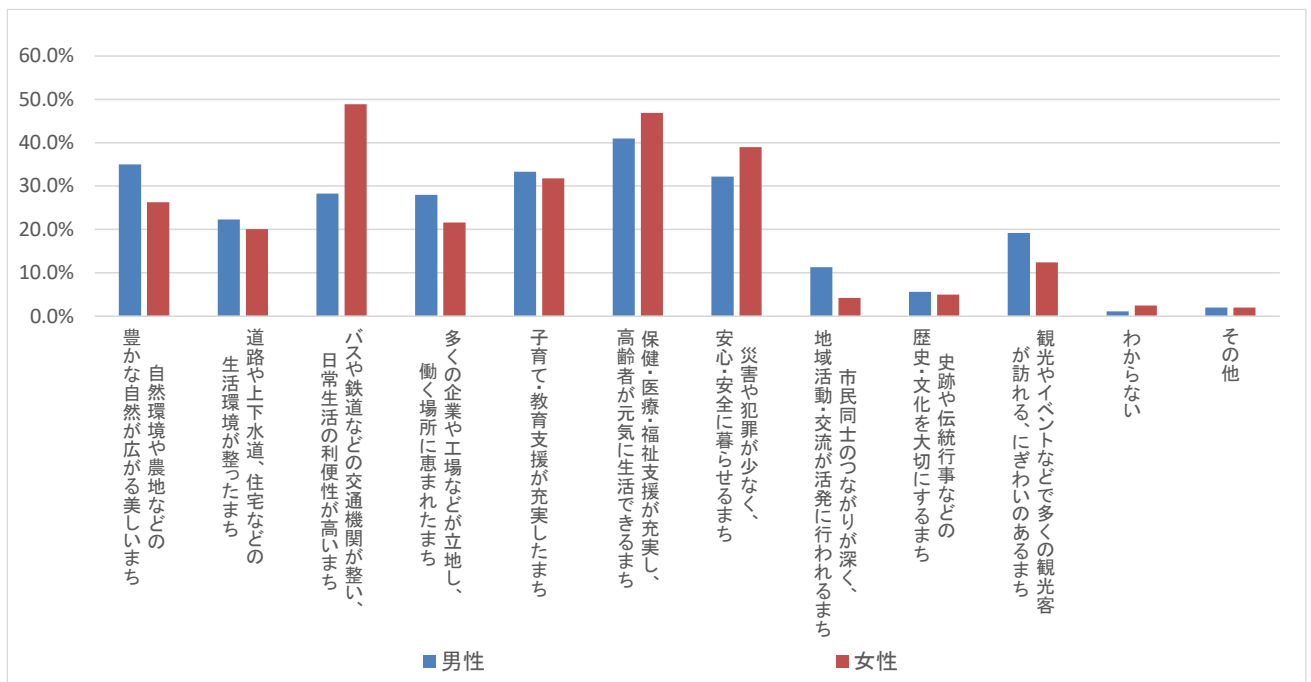
<その他> 若者支援(定着、活躍できる場)、生活環境の改善(買い物)、住環境の改善(除草、衛生面)



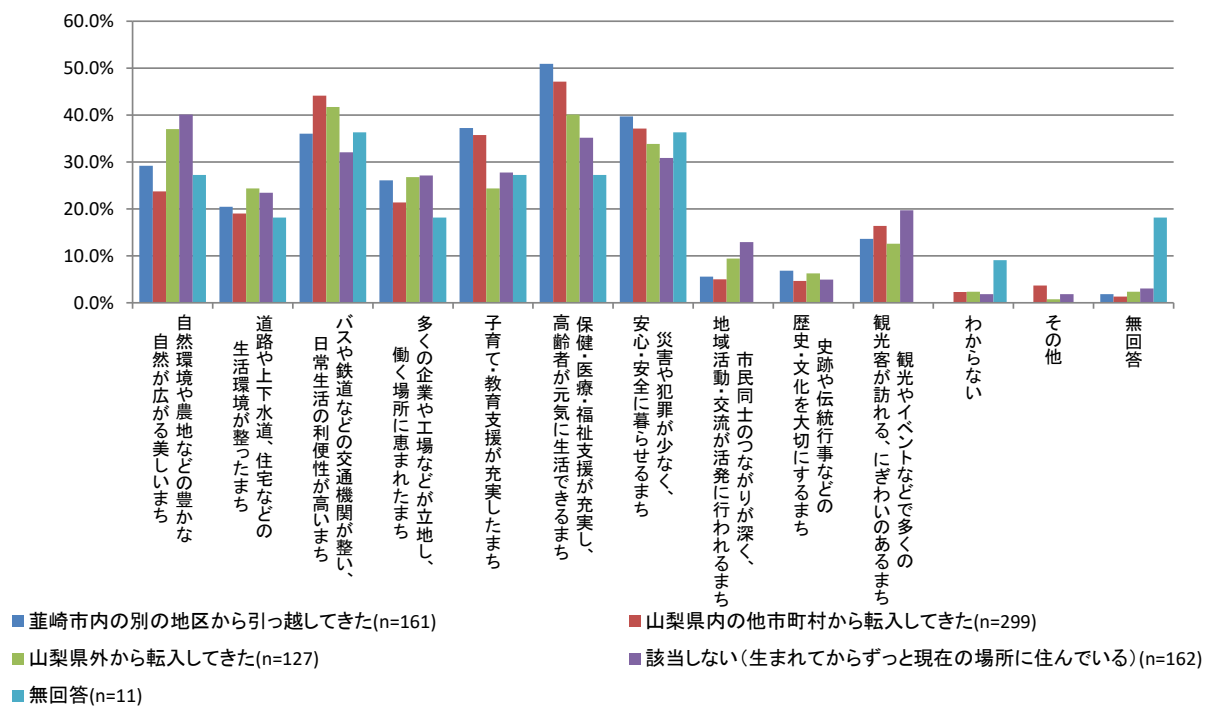
■年齢別



■性別



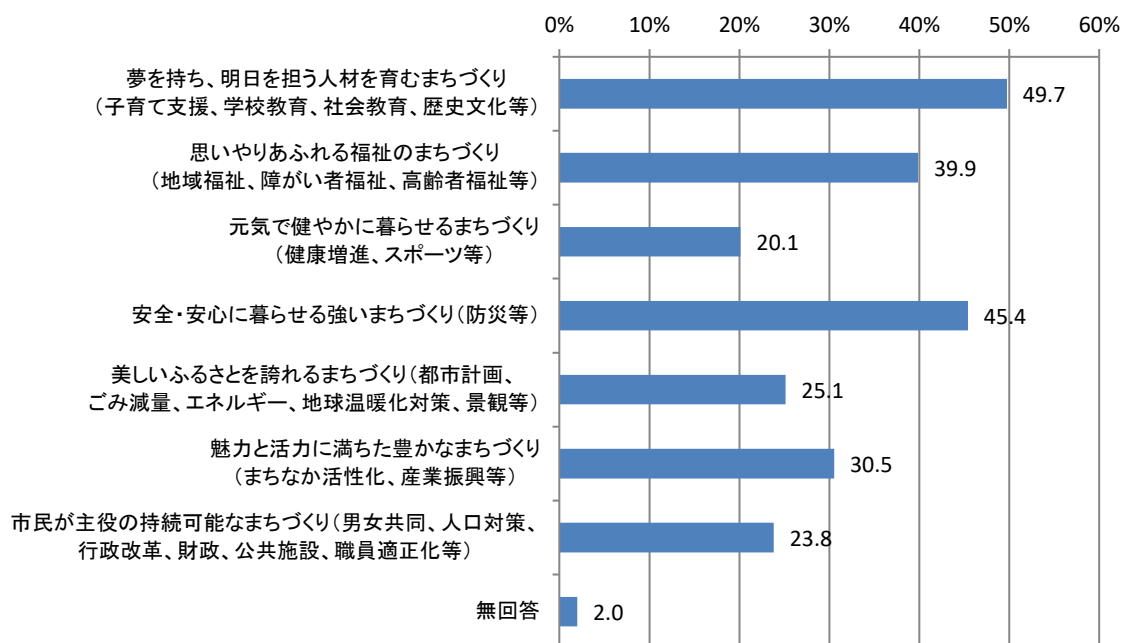
■従前の居住地別



⑰ 将来目指すべきまちの姿に向けて、特に重要だと思うもの

「夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり(子育て支援、学校教育、社会教育、歴史文化等)」が 49.7%と最も多く、次いで「安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)」が 45.4%、「思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)」が 39.9%、「魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)」が 30.5%となっている。

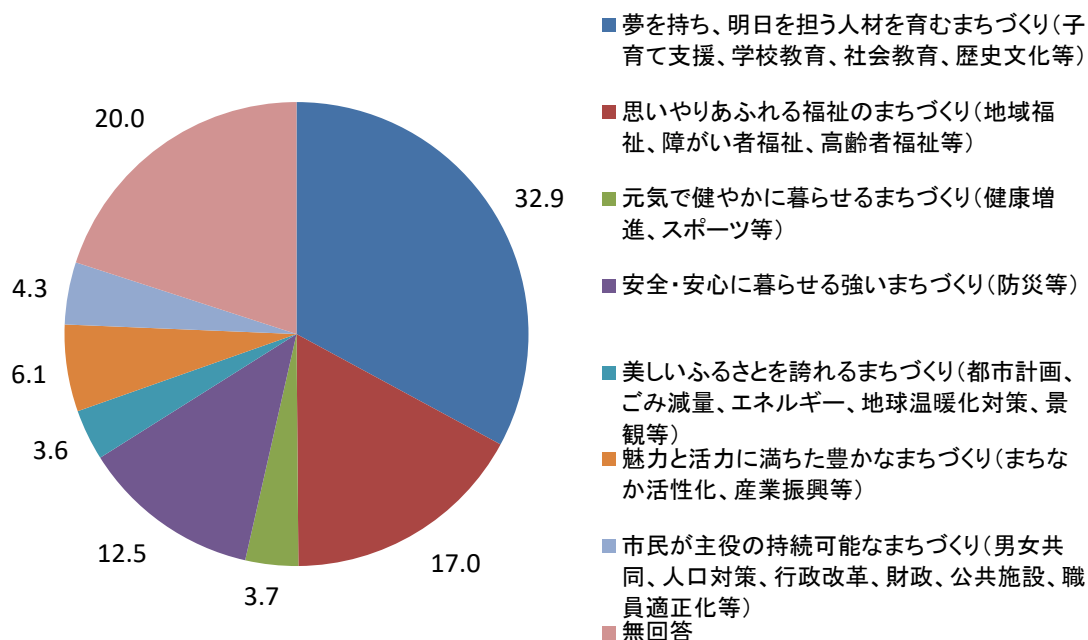
	件数	比率
総数	760	100.0%
夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり(子育て支援、学校教育、社会教育、歴史文化等)	378	49.7%
思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)	303	39.9%
元気で健やかに暮らせるまちづくり(健康増進、スポーツ等)	153	20.1%
安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)	345	45.4%
美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画、ごみ減量、エネルギー、地球温暖化対策、景観等)	191	25.1%
魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)	232	30.5%
市民が主役の持続可能なまちづくり(男女共同、人口対策、行政改革、財政、公共施設、職員適正化等)	181	23.8%
無回答	15	2.0%



⑰-1. 特に重要だと思うもの(一つ目)

「夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり(子育て支援、学校教育、社会教育、歴史文化等)」が 32.9%と最も多く、次いで「思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)」が 17.0%、「安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)」が 12.5%、「魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)」が 6.1%となっている。

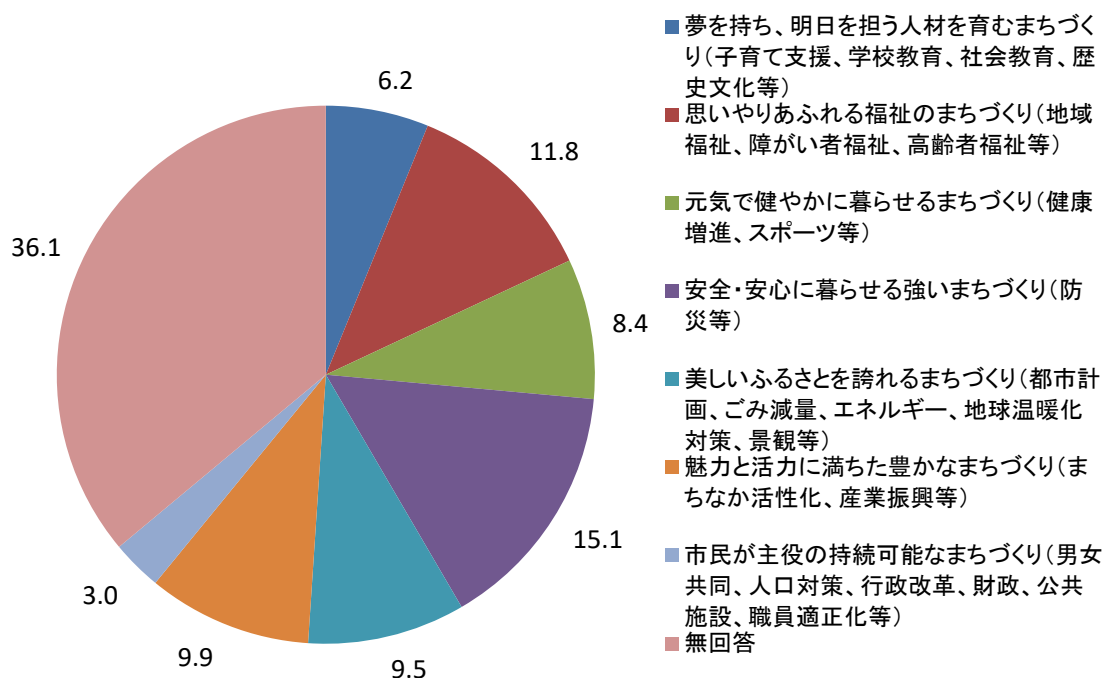
	件数	比率
総数	760	100.0%
夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり(子育て支援、学校教育、社会教育、歴史文化等)	250	32.9%
思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)	129	17.0%
元気で健やかに暮らせるまちづくり(健康増進、スポーツ等)	28	3.7%
安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)	95	12.5%
美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画、ごみ減量、エネルギー、地球温暖化対策、景観等)	27	3.6%
魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)	46	6.1%
市民が主役の持続可能なまちづくり(男女共同、人口対策、行政改革、財政、公共施設、職員適正化等)	33	4.3%
無回答	152	20.0%



⑰-2. 特に重要だと思うもの(二つ目)

「安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)」が 15.1%と最も多く、次いで「思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)」が 11.8%、「魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)」が 9.9%、「美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画、ごみ減量、エネルギー、地球温暖化対策、景観等)」が 9.5%となっている。

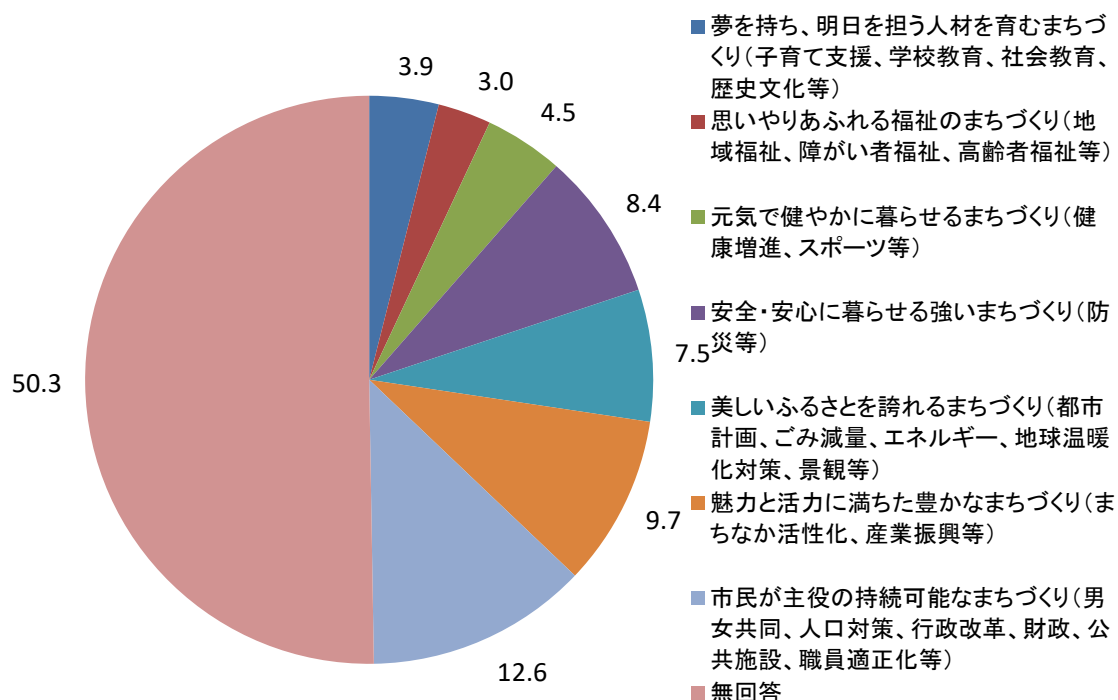
	件数	比率
総数	760	100.0%
夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり(子育て支援、学校教育、社会教育、歴史文化等)	30	3.9%
思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)	23	3.0%
元気で健やかに暮らせるまちづくり(健康増進、スポーツ等)	34	4.5%
安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)	64	8.4%
美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画、ごみ減量、エネルギー、地球温暖化対策、景観等)	57	7.5%
魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)	74	9.7%
市民が主役の持続可能なまちづくり(男女共同、人口対策、行政改革、財政、公共施設、職員適正化等)	96	12.6%
無回答	382	50.3%



⑰-3. 特に重要だと思うもの(三つ目)

「市民が主役の持続可能なまちづくり(男女共同、人口対策、行政改革、財政、公共施設、職員適正化等)」が12.6%と最も多く、次いで「魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)」が9.7%、「安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)」が8.4%、「美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画、ごみ減量、エネルギー、地球温暖化対策、景観等)」が7.5%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり(子育て支援、学校教育、社会教育、歴史文化等)	30	3.9%
思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等)	23	3.0%
元気で健やかに暮らせるまちづくり(健康増進、スポーツ等)	34	4.5%
安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)	64	8.4%
美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画、ごみ減量、エネルギー、地球温暖化対策、景観等)	57	7.5%
魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化、産業振興等)	74	9.7%
市民が主役の持続可能なまちづくり(男女共同、人口対策、行政改革、財政、公共施設、職員適正化等)	96	12.6%
無回答	382	50.3%



⑱(⑰)で選んだテーマについて、重要だと思うこと

● 夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり

子育て支援:73件

学校教育:42件

少子化・人口対策:29件

● 思いやりあふれる福祉のまちづくり(地域福祉・障がい・高齢)

高齢者福祉・介護:52件

障害者福祉:7件

交通・道路:7件

● 安全・安心に暮らせる強いまちづくり(防災等)

防災:36件

防犯・治安:8件

交通・道路/コミュニティ:各3件

● 魅力と活力に満ちた豊かなまちづくり(まちなか活性化・産業振興)

商業・中心市街地・観光:10件

産業・雇用・企業誘致:9件

少子化・人口対策:5件

● 美しいふるさとを誇れるまちづくり(都市計画・ごみ・エネルギー・景観)

都市計画・景観・環境:15件

● 元気で健やかに暮らせるまちづくり(健康増進・スポーツ)

スポーツ・健康増進:10件

医療・病院:2件

● 市民が主役の持続可能なまちづくり(男女共同・人口・行政改革・財政)

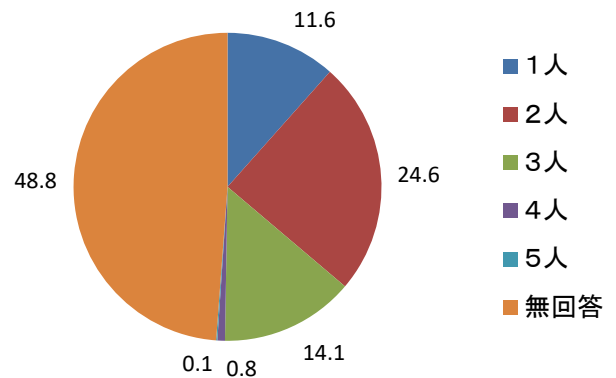
少子化・人口対策:10件

行財政・行政改革・公共施設:4件

⑱ 子どもの人数

「2人」が 24.6%と最も多く、次いで「3人」が 14.1%、「1人」が 11.6%、「4人」が 0.8%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
1人	88	11.6%
2人	187	24.6%
3人	107	14.1%
4人	6	0.8%
5人	1	0.1%
無回答	371	48.8%



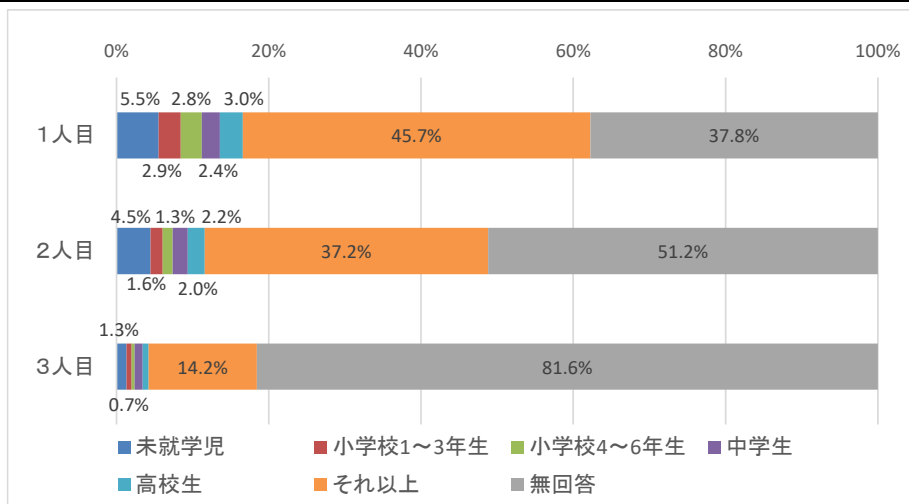
⑱-1. 子どもの年齢

1人目は「それ以上」が 45.7%と最も多く、次いで「未就学児」が 5.5%、「高校生」が 3.0%、「小学校 1～3 年生」が 2.9%となっている。

2人目は「それ以上」が 37.2%と最も多く、次いで「未就学児」が 4.5%、「高校生」が 2.2%、「中学生」が 2.0%となっている。

3人目は「それ以上」が 14.2%と最も多く、次いで「未就学児」が 1.3%、「中学生」が 1.1%、「高校生」が 0.8%となっている。

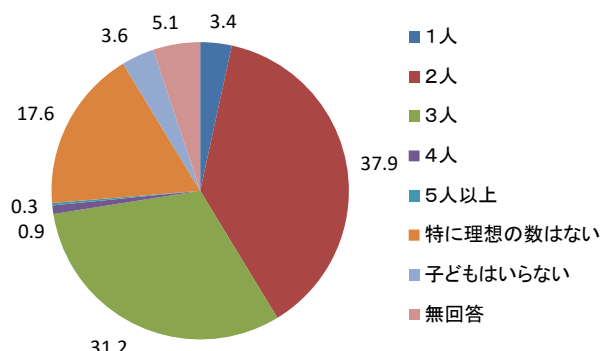
	件数			比率		
	1人目	2人目	3人目	1人目	2人目	3人目
総数	760	760	760	100.0%	100.0%	100.0%
未就学児	42	34	10	5.5%	4.5%	1.3%
小学校 1～3 年生	22	12	5	2.9%	1.6%	0.7%
小学校 4～6 年生	21	10	3	2.8%	1.3%	0.4%
中学生	18	15	8	2.4%	2.0%	1.1%
高校生	23	17	6	3.0%	2.2%	0.8%
それ以上	347	283	108	45.7%	37.2%	14.2%
無回答	287	389	620	37.8%	51.2%	81.6%



⑩理想とする子どもの数

「2人」が37.9%と最も多く、次いで「3人」が31.2%、「特に理想の数はない」が17.6%、「子どもはいらない」が3.6%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
1人	26	3.4%
2人	288	37.9%
3人	237	31.2%
4人	7	0.9%
5人以上	2	0.3%
特に理想の数はない	134	17.6%
子どもはいらない	27	3.6%
無回答	39	5.1%

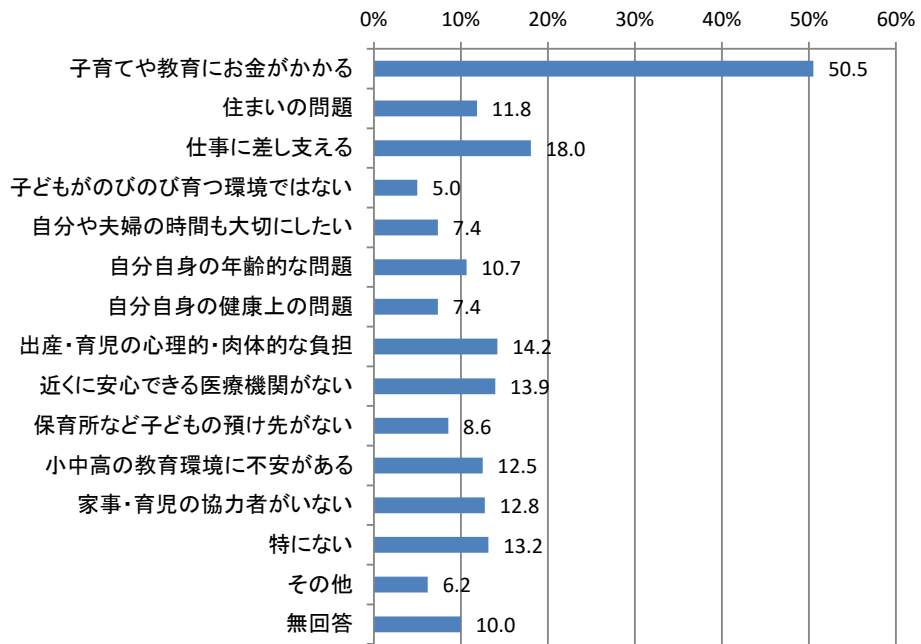


⑪ 蕪崎市で子育てをする場合に、支障となること(または支障になりそうなこと)

「子育てや教育にお金がかかる」が50.5%と最も多く、次いで「仕事に差し支える」が18.0%、「出産・育児の心理的・肉体的な負担」が14.2%、「近くに安心できる医療機関がない」が13.9%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
子育てや教育にお金がかかる	384	50.5%
住まいの問題	90	11.8%
仕事に差し支える	137	18.0%
子どもがのびのび育つ環境ではない	38	5.0%
自分や夫婦の時間も大切にしたい	56	7.4%
自分自身の年齢的な問題	81	10.7%
自分自身の健康上の問題	56	7.4%
出産・育児の心理的・肉体的な負担	108	14.2%
近くに安心できる医療機関がない	106	13.9%
保育所など子どもの預け先がない	65	8.6%
小中高の教育環境に不安がある	95	12.5%
家事・育児の協力者がいない	97	12.8%
特になし	100	13.2%
その他	47	6.2%
無回答	76	10.0%

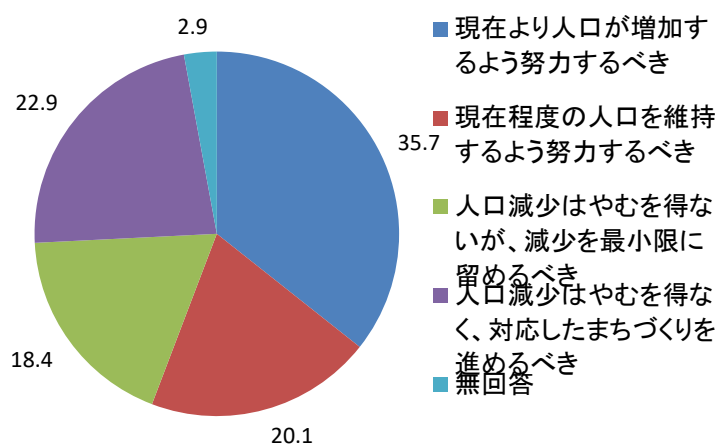
<その他> 交通の便が悪い(通学の不便さ)、子どもの遊び場・交流をはかる場が少ない



② 蕪崎市における人口減少対策への取組について、考えに最も近いもの

「現在より人口が増加するよう努力すべき」が35.7%と最も多く、次いで「人口減少はやむを得なく、対応したまちづくりを進めるべき」が22.9%、「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」が20.1%、「人口減少はやむを得ないが、減少を最小限に留めるべき」が18.4%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
現在より人口が増加するよう努力すべき	271	35.7%
現在程度の人口を維持するよう努力すべき	153	20.1%
人口減少はやむを得ないが、減少を最小限に留めるべき	140	18.4%
人口減少はやむを得なく、対応したまちづくりを進めるべき	174	22.9%
無回答	22	2.9%

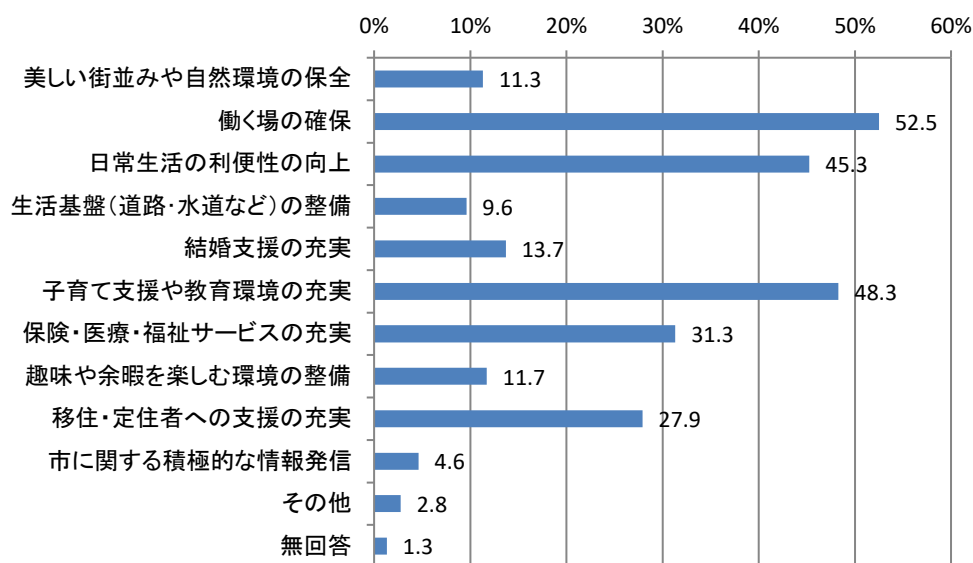


③ 市の人口減少に歯止めをかけるために、特に必要なこと

「働く場の確保」が 52.5%と最も多く、次いで「子育て支援や教育環境の充実」が 48.3%、「日常生活の利便性の向上」が 45.3%、「保険・医療・福祉サービスの充実」が 31.3%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
美しい街並みや自然環境の保全	86	11.3%
働く場の確保	399	52.5%
日常生活の利便性の向上	344	45.3%
生活基盤(道路・水道など)の整備	73	9.6%
結婚支援の充実	104	13.7%
子育て支援や教育環境の充実	367	48.3%
保険・医療・福祉サービスの充実	238	31.3%
趣味や余暇を楽しむ環境の整備	89	11.7%
移住・定住者への支援の充実	212	27.9%
市に関する積極的な情報発信	35	4.6%
その他	21	2.8%
無回答	10	1.3%

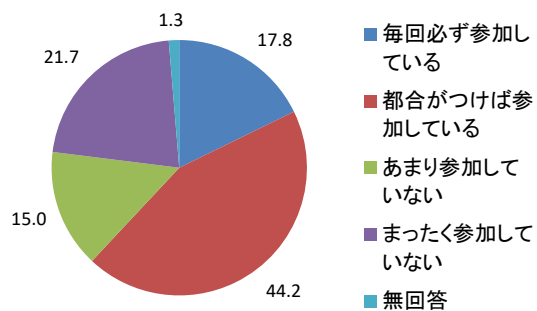
<その他> 補助金や減税などの充実



④ 地域活動(自治会、子ども会、美化活動など)への参加程度

「都合がつけば参加している」が44.2%と最も多く、次いで「まったく参加していない」が21.7%、「毎回必ず参加している」が17.8%、「あまり参加していない」が15.0%となっている。

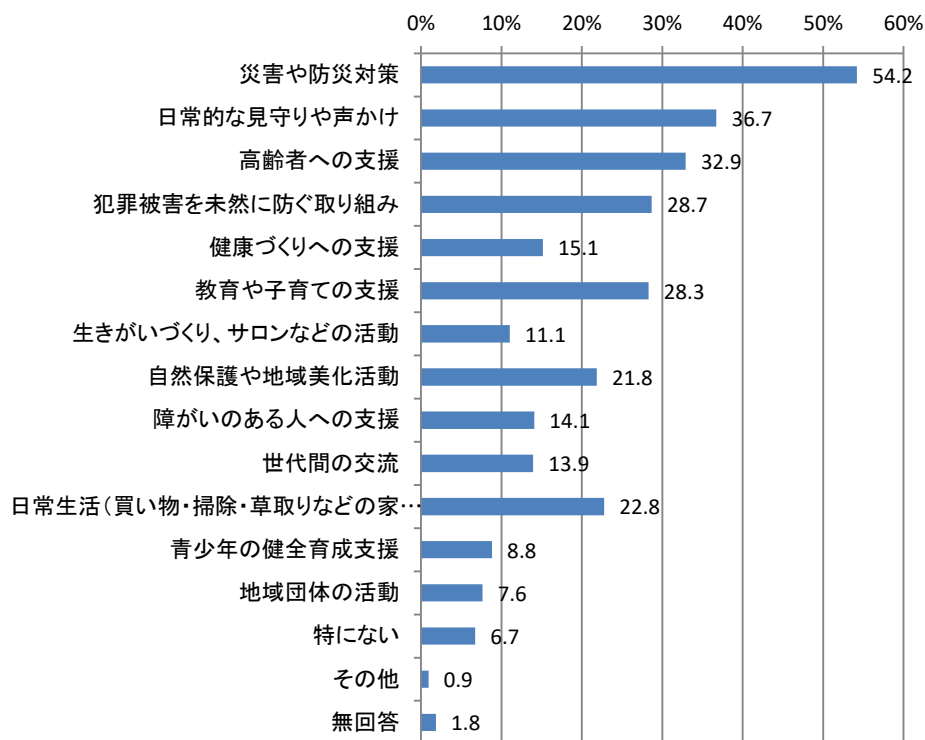
	件数	比率
総数	760	100.0%
毎回必ず参加している	135	17.8%
都合がつけば参加している	336	44.2%
あまり参加していない	114	15.0%
まったく参加していない	165	21.7%
無回答	10	1.3%



⑤ 地域生活の中で、地域の人が協力して取り組むことについて、特に期待すること

「災害や防災対策」が 54.2%と最も多く、次いで「日常的な見守りや声かけ」が 36.7%、「高齢者への支援」が 32.9%、「犯罪被害を未然に防ぐ取り組み」が 28.7%となっている。

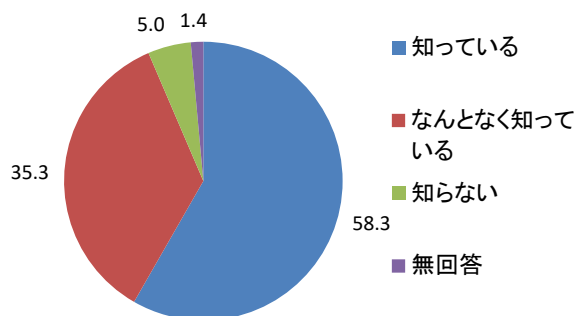
	件数	比率
総数	760	100.0%
災害や防災対策	412	54.2%
日常的な見守りや声かけ	279	36.7%
高齢者への支援	250	32.9%
犯罪被害を未然に防ぐ取り組み	218	28.7%
健康づくりへの支援	115	15.1%
教育や子育ての支援	215	28.3%
生きがいづくり、サロンなどの活動	84	11.1%
自然保護や地域美化活動	166	21.8%
障がいのある人への支援	107	14.1%
世代間の交流	106	13.9%
日常生活(買い物・掃除・草取りなどの家事、軽作業)の協力	173	22.8%
青少年の健全育成支援	67	8.8%
地域団体の活動	58	7.6%
特にない	51	6.7%
その他	7	0.9%
無回答	14	1.8%



②⑥ 災害が発生した際の避難所や避難経路の認知

「知っている」が 58.3%と最も多く、次いで「なんとなく知っている」が 35.3%、「知らない」が 5.0%となっている。

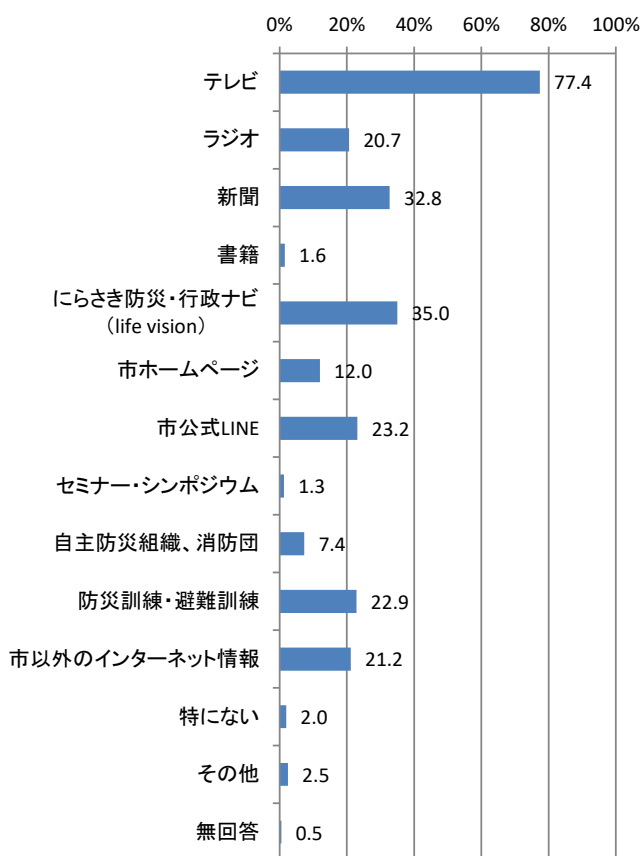
	件数	比率
総数	760	100.0%
知っている	443	58.3%
なんとなく知っている	268	35.3%
知らない	38	5.0%
無回答	11	1.4%



②⑦ ふだん災害の危険性に関する知識や情報の入手手段

「テレビ」が 77.4%と最も多く、次いで「にらさき防災・行政ナビ(life vision)」が 35.0%、「新聞」が 32.8%、「市公式 LINE」が 23.2%となっている。

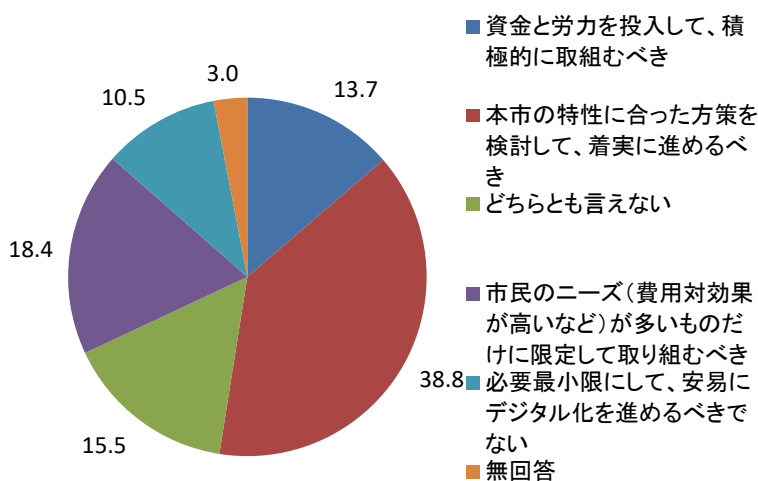
	件数	比率
総数	760	100.0%
テレビ	588	77.4%
ラジオ	157	20.7%
新聞	249	32.8%
書籍	12	1.6%
にらさき防災・行政ナビ (life vision)	266	35.0%
市ホームページ	91	12.0%
市公式 LINE	176	23.2%
セミナー・シンポジウム	10	1.3%
自主防災組織、消防団	56	7.4%
防災訓練・避難訓練	174	22.9%
市以外の インターネット情報	161	21.2%
特にない	15	2.0%
その他	19	2.5%
無回答	4	0.5%



<その他> 市の広報、防災マップ、回覧板、市の無線

⑳ 蕪崎市における行政及び自治会へのデジタル化に対する取組みについて、最も考えに近いもの「本市の特性に合った方策を検討して、着実に進めるべき」が38.8%と最も多く、次いで「市民のニーズ(費用対効果が高いなど)が多いものだけに限定して取り組むべき」が18.4%、「どちらとも言えない」が15.5%、「資金と労力を投入して、積極的に取り組むべき」が13.7%となっている。

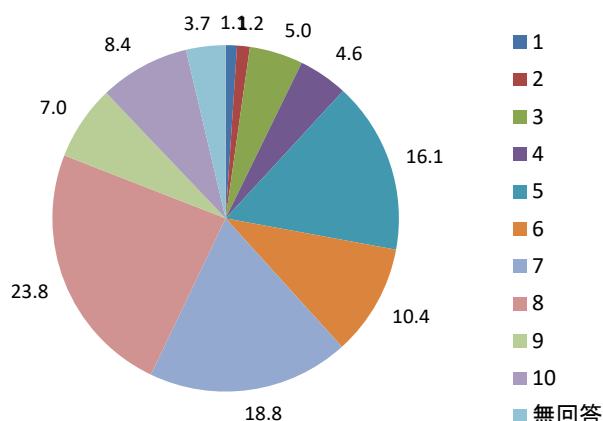
	件数	比率
総数	760	100.0%
資金と労力を投入して、積極的に取り組むべき	104	13.7%
本市の特性に合った方策を検討して、着実に進めるべき	295	38.8%
どちらとも言えない	118	15.5%
市民のニーズ(費用対効果が高いなど)が多いものだけに限定して取り組むべき	140	18.4%
必要最小限にして、安易にデジタル化を進めるべきでない	80	10.5%
無回答	23	3.0%



㊹ 幸せと感じている度合

「8」が23.8%と最も多く、次いで「7」が18.8%、「5」が16.1%、「6」が10.4%となっている。
また平均値は、「6.73」となっている。

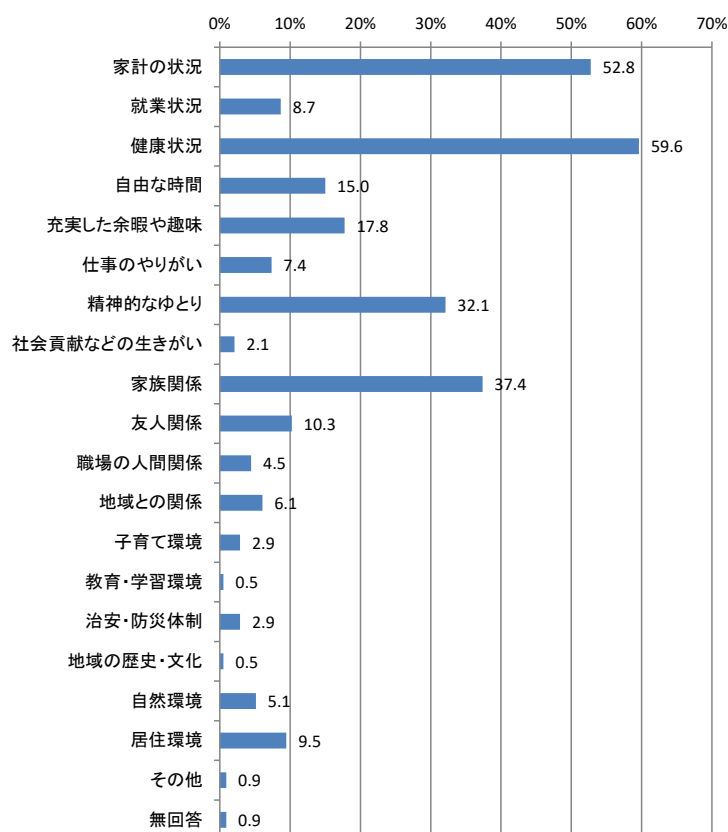
	件数	比率
総数	760	100.0%
1	8	1.1%
2	9	1.2%
3	38	5.0%
4	35	4.6%
5	122	16.1%
6	79	10.4%
7	143	18.8%
8	181	23.8%
9	53	7.0%
10	64	8.4%
無回答	28	3.7%



㊺ 幸せかどうかの判断基準として特に重要なもの

「健康状況」が59.6%と最も多く、次いで「家計の状況」が52.8%、「家族関係」が37.4%、「精神的なゆとり」が32.1%となっている。

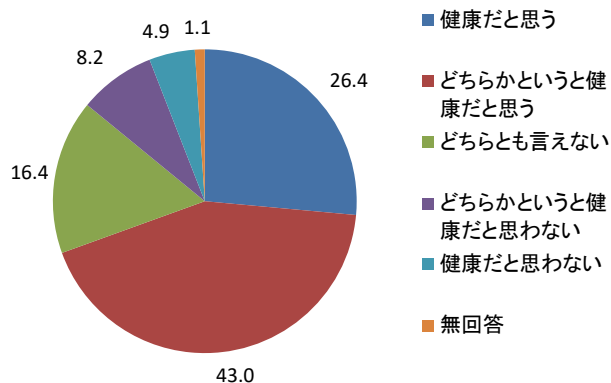
	件数	比率
総数	760	100.0%
家計の状況	401	52.8%
就業状況	66	8.7%
健康状況	453	59.6%
自由な時間	114	15.0%
充実した余暇や趣味	135	17.8%
仕事のやりがい	56	7.4%
精神的なゆとり	244	32.1%
社会貢献などの生きがい	16	2.1%
家族関係	284	37.4%
友人関係	78	10.3%
職場の人間関係	34	4.5%
地域との関係	46	6.1%
子育て環境	22	2.9%
教育・学習環境	4	0.5%
治安・防災体制	22	2.9%
自然環境	39	5.1%
居住環境	72	9.5%
その他	7	0.9%
無回答	7	0.9%



③ 身体的・精神的な健康状態

「どちらかという健康だと思う」が43.0%と最も多く、次いで「健康だと思う」が26.4%、「どちらとも言えない」が16.4%、「どちらかという健康だと思わない」が8.2%となっている。

	件数	比率
総数	760	100.0%
健康だと思う	201	26.4%
どちらかという健康 だと思う	327	43.0%
どちらとも言えない	125	16.4%
どちらかという健康 だと思わない	62	8.2%
健康だと思わない	37	4.9%
無回答	8	1.1%



③ 韮崎市のイメージ

カテゴリー	件数
自然・環境	122
都市の特徴・魅力	123
地域性・人の温かさ	118
商業・利便性	86
交通・アクセス	82
スポーツ・文化	73
子育て・教育環境	32
その他	71

<主な意見>

●自然・環境

- ・自然災害が少ない。桃・ぶどう・富士山の景観が素晴らしい」
- ・近隣での工事により、畑の盛土が高くなり景色が遮られた。移住の決め手だった眺望が失われ残念
- ・自然環境が良く、農・工・商のバランスも良いが、人口は微減傾向」

●都市の特徴・魅力

- ・農・工・商のバランスが良い。企業・住宅誘致や都市計画の見直しで人口増を
- ・田舎すぎず都会すぎずちょうど良い。本町通りの継続的な発展を期待
- ・観光の目玉に乏しい。特産・史跡・工場をつなぐ観光ルートの整備を

●地域性・人の温かさ

- ・自然環境は良いが人口動態の偏りが気になる。住宅や学区のバランスに配慮
- ・良くも悪くも地元愛が強く、閉鎖的な面も。新住民の意見が通りにくい
- ・移住者も増え平和な町。若者は減少傾向だが、イベントで活気

●商業・利便性

- ・買い物しやすい。新しい店も増え、子育て施設や体育館も気軽に利用できる
- ・商業施設が充実、飲食店も多い。イベントが多く文化的な街
- ・若い人の出店が増え、街に活気が出てきた

●交通・アクセス

- ・活性化は理解するが、中心部の駐車場が不足。無断駐車も多く来訪に勧めにくい
- ・IC や中央本線(特急あずさ)がありアクセス良好。田舎にいながら都心へ出やすい
- ・地域差はあるが公共交通が少ない。車が使えない高齢者の足が課題

●スポーツ・文化

- ・歴史と伝統、スポーツ、大村先生
- ・大村美術館、わに塚の桜、市制祭などを市内外に勧めたい。のんびり街歩きができる
- ・イベントが多い。文化的な街という印象

●子育て・教育環境

- ・小学校の給食が美味しく栄養バランス良好。地場食材で郷土理解も深まる
- ・子育て支援が充実。通学路の安全対策(ガードレール)も評価
- ・駅近の子育て施設(ニラチビ等)や青少年育成機関が先進的。体育館・公園も整備

③ 韮崎市のこれからに向けて期待することや提案

カテゴリー	件数
自然・環境	119
交通・アクセス	142
商業・利便性	99
都市の特徴・魅力	97
子育て・教育環境	82
地域性・人の温かさ	60
スポーツ・文化	40
その他	238

<主な意見>

●自然・環境

- ・特に山に近い所に住んでいて、しかも若者が離れていく現状、農家が多く田畑も広く所有しており高齢化が進み、草も多く生えて処理に困り道も徐々にふさがっている現状。農地故に転売も出来ず家を建てることも出来ないで、空き家も多く過疎地域になりかねない。
- ・駅前二コリの駐車場が24時間となり、料金もリーズナブルになった事はとても良かったです。街中は若人達がお店を開き市外からの人達も遊びに来ていて嬉しく思います。自然も豊かで山もあり、川もありなのでそれらを生かすツアーなどが沢山あると良いですね。

●交通・アクセス

- ・駅前二コリの駐車場が24時間となり、料金もリーズナブルになった事はとても良かったです。
- ・広報などでどこどこでリノベーションしたお店とか紹介されますが、駐車場が二コリからは距離があります。町中に市営駐車が格安であれば便利かと思えます。

●商業・利便性

- ・駅前二コリの駐車場が24時間となり、料金もリーズナブルになった事はとても良かったです。街中は若人達がお店を開き市外からの人達も遊びに来ていて嬉しく思います。
- ・夜間や休日などに子供が急に病気になったときすぐに近くで対応してもらえない事が多いので、医療体制の拡充を求めます。韮崎市内で買い物や遊びが完結出来るような大きな施設があると便利

●都市の特徴・魅力

- ・子どもの夜間救急など医療体制の拡充、観光客も楽しめる施設の整備。
- ・観光業を促進するのであれば、交通機関の充実と駐車場の確保が必要。(近隣スーパーとの協力案)
- ・塩川沿いのウォーキングコースやミニ花火大会など、地域の魅力を生かしたにぎわいづくりの提案

●子育て・教育環境

- ・夜間や休日などに子供が急に病気になったとき…医療体制の拡充、市内で完結する大型施設の要望
- ・子育てには二コリのようなセンターも必要だが、市の中心部に公園が欲しい。公共機関のバス本数をもっと増やして欲しい

●地域性・人の温かさ

- ・特に山に近い所に住んでいて、しかも若者が離れていく現状、農家が多く田畑も広く所有しており高齢化が進み、草も多く生えて処理に困り道も徐々にふさがっている現状
- ・藤井町に住んでいます。健康促進策として塩川沿いのウォーキングコースを整備してほしい

●スポーツ・文化

- ・観光資源を活かした周遊(トロッコ列車)など集客の仕組みを提案。(武田神社～大村智記念館～文化ホール など)
- ・サッカーのまちとして子どもが参加できるイベントの充実。